

2026年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2025年11月5日
株式会社エピコ
証券コード：7947

本資料取り扱いのご注意



掲載する情報に関して、細心の注意を払っております。将来の予測等に関する情報は、現時点で入手可能な情報にもとづき、当社が判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料に掲載する情報の、**無断での引用や転載、複製は禁じられています。**

目次



- 2026年3月期 第2四半期決算概要 … 4
- 企業価値拡大に向けて … 11
- 添付資料 … 46

2026年3月期 第2四半期 決算概要

専務取締役 経理財務本部本部長
池上 功

決算概要 (2026年3月期 第2四半期累計実績)



過去最高

✓ 売上高: 11期連続増収
✓ 各段階損益: 2期ぶりに増益

(百万円)	上期 実績				上期 計画		通期 修正計画		通期 初計画		
	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減	前年比	数量	計画	計画比	計画	進捗率	計画	進捗率
トレー	21,072	23,054	+1,982	109.4%	100.4%	22,397	102.9%	46,990	49.1%	46,510	49.6%
弁当・惣菜	64,967	67,018	+2,050	103.2%	96.9%	69,013	97.1%	136,166	49.2%	138,882	48.3%
小計	86,040	90,072	+4,032	104.7%	98.1%	91,410	98.5%	183,156	49.2%	185,392	48.6%
その他製品	1,591	1,576	▲15	99.0%		1,690	93.3%	3,494	45.1%	3,608	43.7%
製品売上高	87,631	91,648	+4,017	104.6%		93,100	98.4%	186,650	49.1%	189,000	48.5%
包装資材	26,235	26,792	+556	102.1%		26,873	99.7%	53,868	49.7%	54,240	49.4%
その他商品	1,025	1,019	▲6	99.4%		1,027	99.2%	2,052	49.7%	2,060	49.5%
商品売上高	27,261	27,811	+549	102.0%		27,900	99.7%	55,920	49.7%	56,300	49.4%
売上高	114,892	119,460	+4,567	104.0%		121,000	98.7%	242,570	49.2%	245,300	48.7%
営業利益	6,472	9,296	+2,824	143.6%		7,630	121.8%	21,610	43.0%	19,790	47.0%
経常利益	6,520	9,346	+2,825	143.3%		7,600	123.0%	21,500	43.5%	19,600	47.7%
親会社株主に帰属する 中間純利益	4,337	6,425	+2,087	148.1%		5,010	128.3%	14,700	43.7%	13,170	48.8%
償却前経常利益	13,967	16,614	+2,646	118.9%		14,900	111.5%	36,200	45.9%	34,400	48.3%

特記事項

<製品>

- 価格改定効果の反映等により、売上高前年同期比104.0%
- 工コ製品・軽量化製品の堅調な販売によりMIX改善
- 製品枚数 前年同期比98.1%
- 小売の買い上げ点数が減少
特にコンビニエンスストアで傾向が顕著

<商品>

- 当社グループのインフラを活用した効率化提案
- PB品の販売強化

前年比

(%)	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期修正計画	通期修正計画
製品売上高	105.6	103.7	104.6	102.0	103.3
商品売上高	102.6	101.5	102.0	101.9	101.9
経常利益	179.7	124.2	143.3	101.9	116.5
製品枚数	97.8	98.3	98.1	101.5	99.8

利益率

(%)	1Q実績	2Q実績	上期実績	下期修正計画	通期修正計画
営業利益率	6.8	8.7	7.8	10.0	8.9
経常利益率	7.0	8.6	7.8	9.9	8.9
純利益率	4.9	5.9	5.4	6.7	6.1

経常利益 利益増減実績 (2026年3月期 第2四半期累計)

単位：億円

2025年3月期

通期 184.5

上期 65.2

下期 119.3

前期比
+28.3

$(1Q +17.9, 2Q +10.4)$

改善効果	+6.1
人件費・労務費	▲8.6
減価償却費	+1.4
電力	▲1.0
運送費	▲7.9

原料価格 ▲5.0

(1Q ▲4.0, 2Q ▲1.0)

期初計画比
+10.0

原料市況が
想定を下回る

販売活動 (数量・MIX改善
製品価格改定) +45.0

(1Q +27.0, 2Q +18.0)

±0.0

生産 ▲2.0

(1Q ±0.0, 2Q ▲2.0)

+3.0

生産性向上

物流 ▲7.0

(1Q ▲3.5, 2Q ▲3.5)

±0.0

グループ会社 ▲1.0

(1Q ±0.0, 2Q ▲1.0)

±0.0

経費 ▲1.7

(1Q ▲1.6, 2Q ▲0.1)

+4.5

経費合理化

計 +17.5

2026年3月期

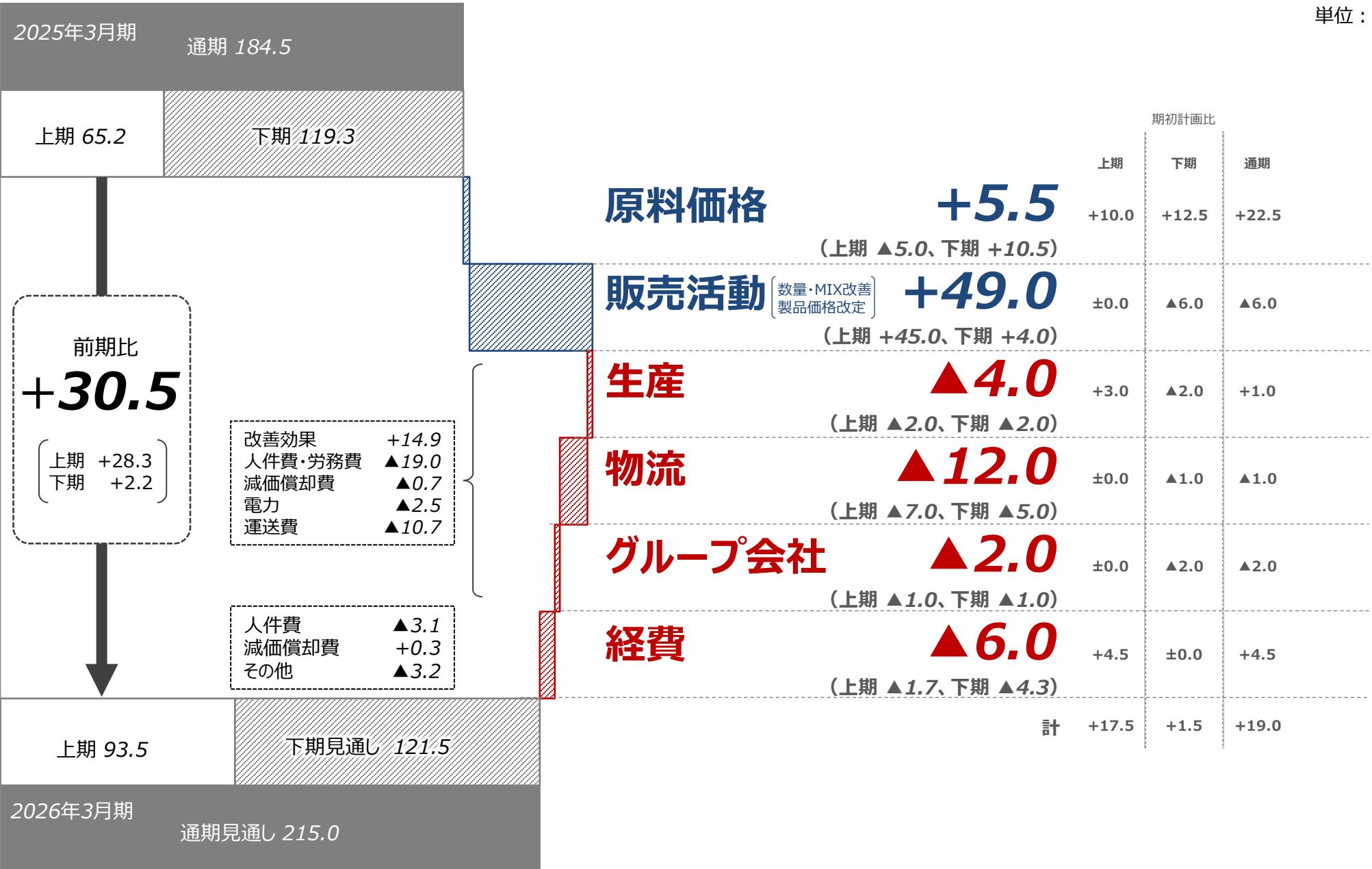
上期 93.5

人件費	▲0.6
減価償却費	+0.3
その他	▲1.4

経常利益 利益増減見通し (2026年3月期)

2Q時点

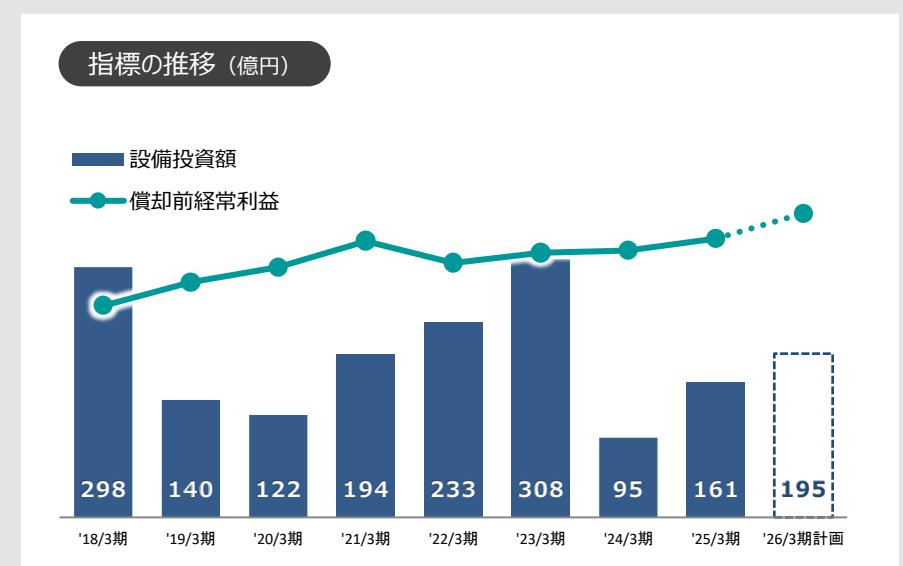
単位：億円



設備投資・研究開発費 (2026年3月期 第2四半期累計実績)

(百万円)	上期 実績			上期計画		通期計画		
	2025年3月期	2026年3月期			2026年3月期	2026年3月期	2026年3月期	
	実績	実績	増減	前年比	計画	計画比	計画	進捗率
有形固定資産	8,384	7,724	▲659	92.1%	9,000	85.8%	18,900	40.9%
無形固定資産	193	160	▲32	83.0%	200	80.3%	600	26.8%
設備投資	8,578	7,885	▲692	91.9%	9,200	85.7%	19,500	40.4%
減価償却費	7,447	7,268	▲179	97.6%	7,300	99.6%	14,700	49.4%
研究開発費	762	874	+111	114.6%	920	95.1%	1,780	49.1%

(百万円)				
【主な設備投資】		稼働時期	投資額	上期実績
■オリジナル製品への投資：エコAPET製品の生産能力・品質向上				
エコAPET原料 生産性向上（関東・中部）	1,018	218	1,018	
エコAPET原料 生産能力強化（関東・NPR）	861	147	861	
エコAPET製品 生産能力強化	1,059	199	1,059	
■販売量拡大への投資：安定供給・効率改善・働く環境整備				
自動化設備の導入	190	542		
従来素材製品能力強化	705	1,022		
■筑西倉庫	2026年12月	1,473	-	69
■金型		864	1,989	
■I T投資		267	539	



貸借対照表 (2026年3月期 第2四半期累計実績)

	前連結会計年度		上期			
	2025年3月期 (百万円) 2025/3/31	2025/9/30	増減	前年比	主な増減内訳	
流動資産	98,847	101,498	+ 2,650	102.7%	現金及び預金 受取手形及び売掛金	+1,762 +888
固定資産	193,378	194,522	+ 1,144	100.6%		
資産 合計	292,226	296,020	+ 3,794	101.3%		
流動負債	84,372	83,696	▲ 676	99.2%		
固定負債	53,739	54,378	+ 639	101.2%		
負債 合計	138,111	138,074	▲ 36	100.0%		
純資産 合計	154,114	157,946	+ 3,831	102.5%	利益剰余金	+ 3,191
負債純資産 合計	292,226	296,020	+ 3,794	101.3%		
自己資本比率	52.5%	53.1%				

資産

- オリジナル製品の能力増強と安定供給への戦略投資
- インフラ活用によるM&A、取引先との連携強化

負債

- 戦略投資の原資として借入金の活用

純資産

- 低利での資金調達に向けたA格の維持
- 株主還元の充実強化

売上高・総資産推移 (百万円)



キャッシュ・フロー (2026年3月期 第2四半期累計実績)

	(百万円)	上期		主な内訳
		2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	
営業活動によるC/F		11,637	11,613	税金等調整前中間純利益 9,284 減価償却費 7,268 法人税等の支払額 ▲ 3,512
投資活動によるC/F	▲ 8,205	▲ 6,798		有形固定資産の取得 ▲ 6,699 M&Aによる支出 ▲ 201
フリー・キャッシュ・フロー	3,431	4,815		
財務活動によるC/F	▲ 9,262	▲ 3,052		長期借入れによる収入 7,000 長期借入金の返済 ▲ 6,241 配当金の支払額 ▲ 3,232
現金及び現金同等物の増減額	▲ 5,830	1,762		
現金及び現金同等物の中間期末残高	18,269	20,782		

営業CF

- 製品価格改定効果の反映
- オリジナル製品販売と合理化による利益確保

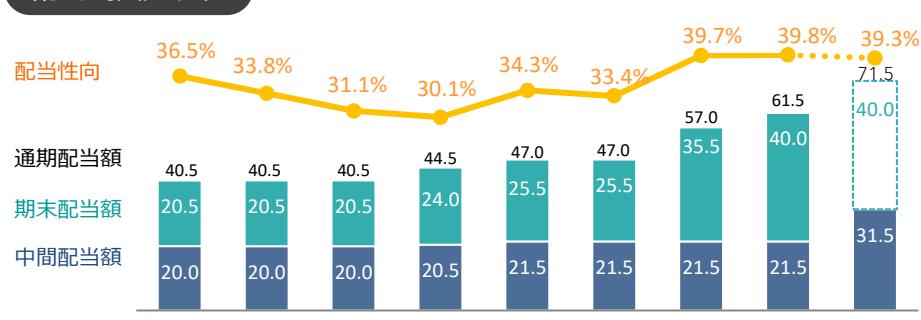
投資CF

- 収益基盤整備に向けた戦略投資
- 製品・サービスの拡充、物流インフラの活用に向けたM&A

財務CF

- 株主還元の充実強化
配当性向40%を目指し累進配当

配当の推移 (円)



企業価値拡大に向けて

代表取締役会長 兼 エピコグループ代表
佐藤 守正

目次

- 01. マーケットの状況**
- 02. エコ戦略**
- 03. エフピコグループのインフラ活用**
- 04. 新OPPシートによる用途開発**
- 05. 企業価値拡大に向けて**

01. マーケットの状況

02. エコ戦略

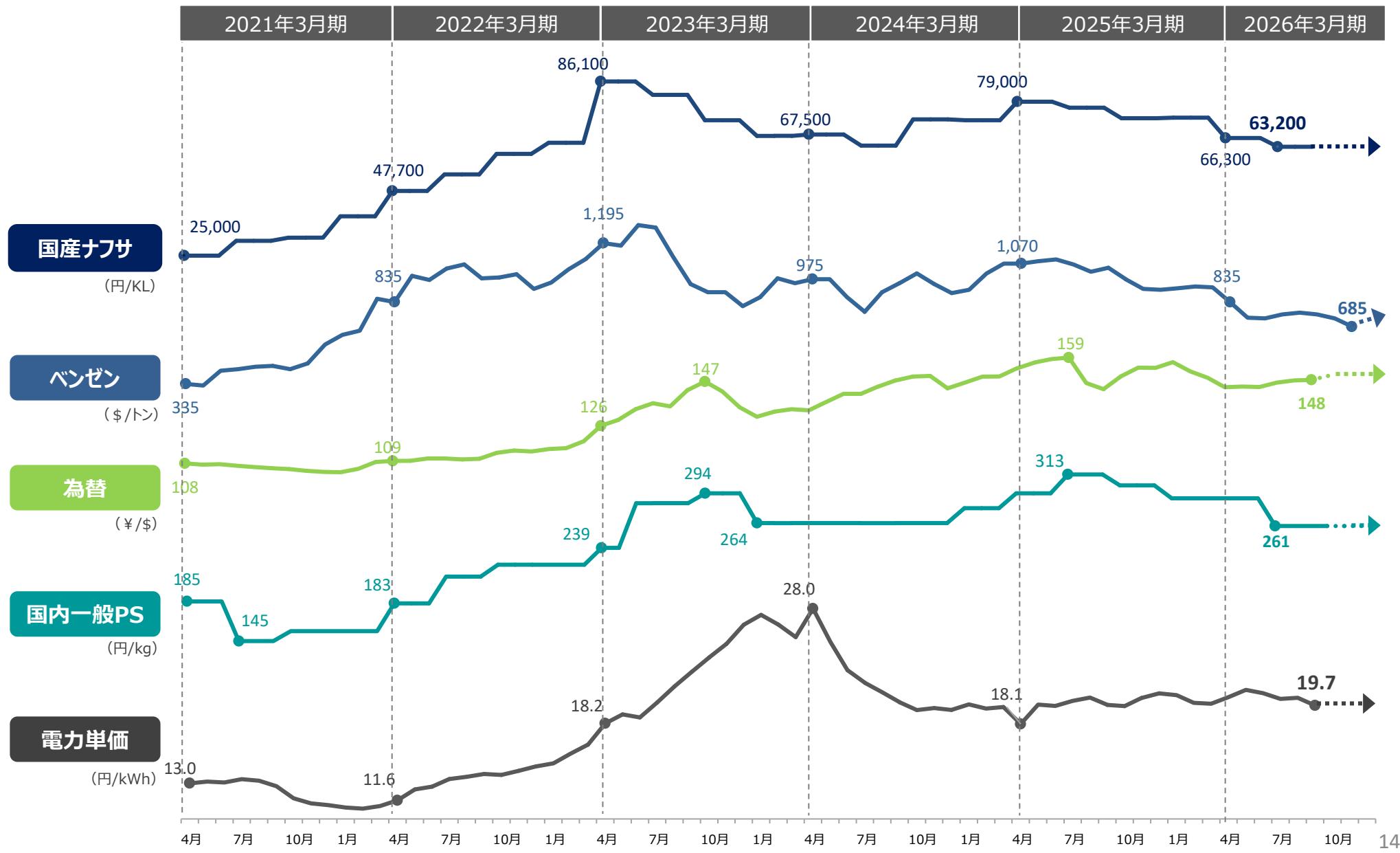
03. エフピコグループのインフラ活用

04. 新OPPシートによる用途開発

05. 企業価値拡大に向けて

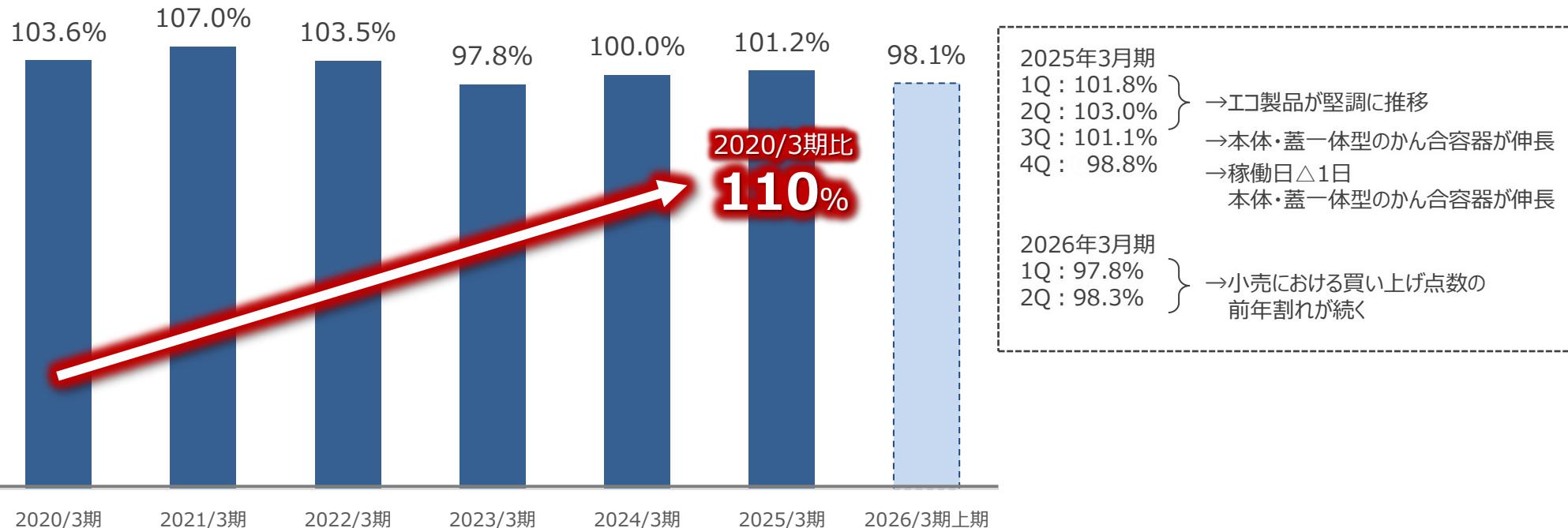
原料と電力価格の動向

(2025年11月時点)



製品販売数量の状況

前年同期比



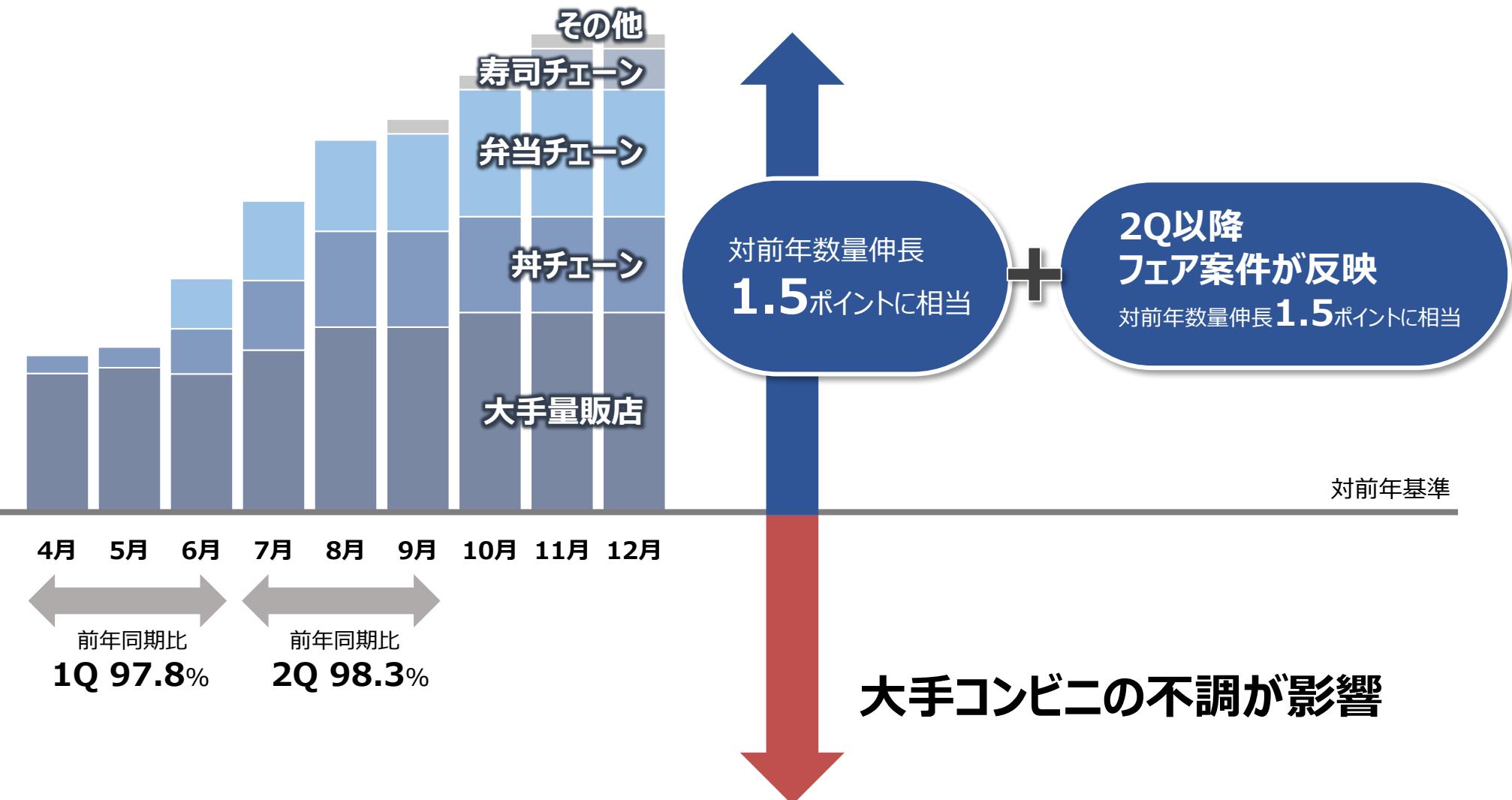
コロナウイルスによる行動制限

内食需要の拡大

反動減

食品を中心とした幅広い物価上昇

数量獲得状況



成長マーケット 冷凍・病院介護給食

病院給食・宅配給食市場推移

市場規模 **2.4**兆円 (2024年度)

高齢化により
市場規模拡大

病院給食



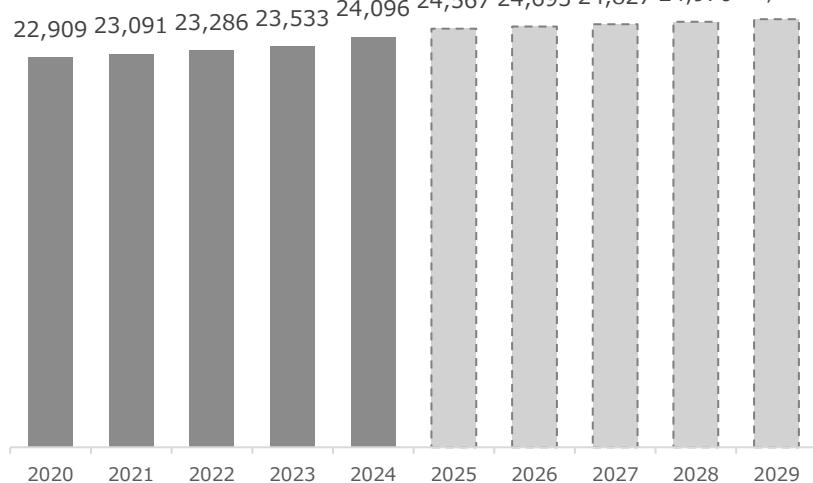
高齢者施設給食



宅配弁当



(億円)



※出典元：矢野経済研究所

課題は **人手不足**

リターナブル容器 → ワンウェイ容器を活用



洗い物の手間がなくなる (厨房での作業時間の40%が洗い物)

施設内調理 → 冷凍弁当に置き換え



作り置きができる
温めるだけで提供可能
長期保管が可能

冷凍食品の供給プロセス

01

ベンダー

生産



02

輸送・配送

冷凍のまま輸送



03

施設

解凍



04

提供

解凍した
食事を提供



耐寒容器における2つの技術開発

01. 新素材「耐寒 PPiP-タルク®」を開発

Point 1

耐寒PPと比較して
プラスチック使用量を25%以上削減

Point 2

耐寒PPFと比較して
冷凍温度帯で割れにくい

Point 3

12シリーズ、33アイテムラインナップ



FTデリプレ角



冷凍環境下でも
割れにくい

02. 真空圧空成形による定位置成形技術を確立

成形サイクルが熱盤成形に比べて約1/2



FT華小町18-13-1 (34)

冷凍マーケット 採用事例

スーパー・マーケット



中四国企業様

産業給食



シルバーライフ様

コンビニエンスストア

大手冷食メーカー

武蔵野フーズ様

冷凍食品メーカー



病院・介護給食



日清医療食品様

【冷凍食品容器 耐寒PPF】売上実績 約15億円(2025/3期)

01. マーケットの状況

02. エコ戦略

03. エフピコグループのインフラ活用

04. 新OPPシートによる用途開発

05. 企業価値拡大に向けて

「ストアtoストア」拡大の効果

※出典元：2025年度「スーパーマーケット白書」

エコストア協働宣言

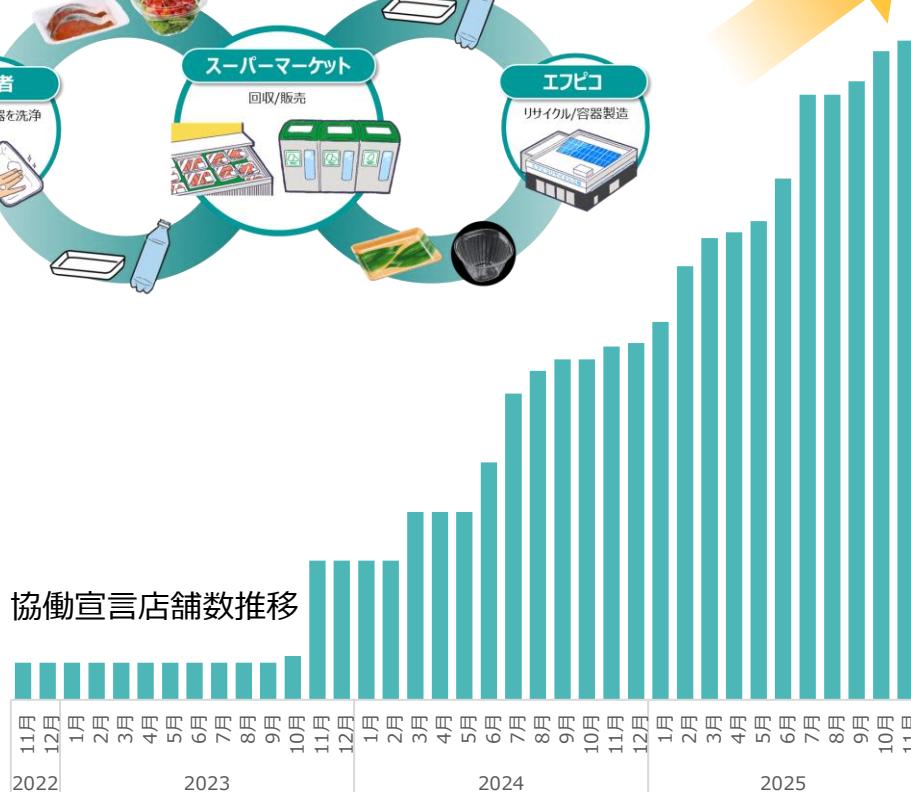
130社 **4,434**店舗

※2025年11月時点

今年中に**5,000**店舗へ

※全国のスーパー・マーケット総数：約23,000店舗

店舗を発着点としたリサイクル 「ストアtoストア」



工場原料調達增加

(容器回収重量 2022/3期 10,300トン→2025/3期 11,000トン)

エコ製品の採用拡大

(2022/3期 636億円→2025/3期 913億円)

CO₂排出量削減に貢献

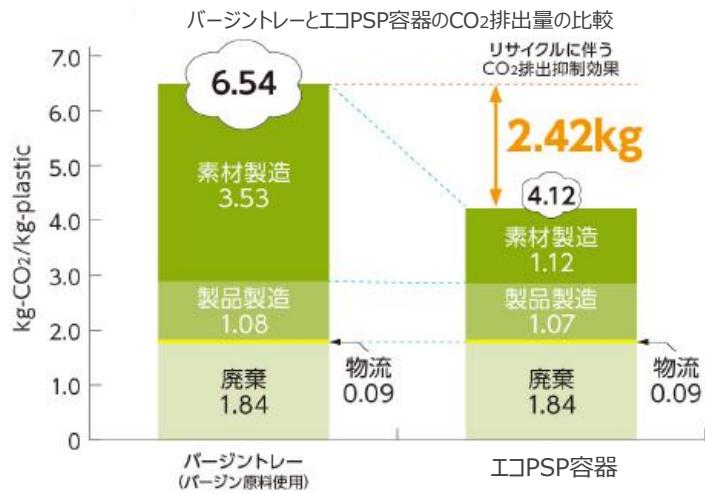
(2022/3期 17.2万トン→2025/3期 20.9万トン)

エコ製品によるCO₂排出量の削減

エコPSP容器

CO₂排出量削減効果

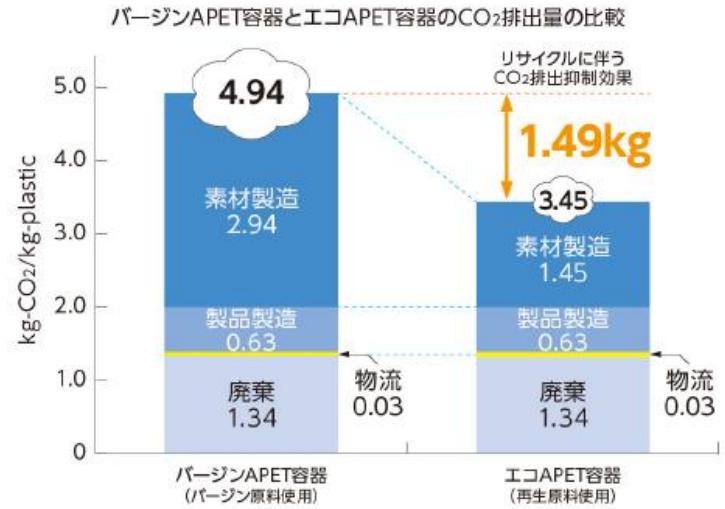
37%



エコAPET・OPET容器

CO₂排出量削減効果

30%



エコ製品によるCO₂削減への貢献

エコ製品の製造・販売で
削減できるCO₂排出量

2024年3月期

20.2万トン

2025年3月期

20.9万トン

エコOPET
4.5万トン

エコAPET
10.4万トン

エコPSP
6.1万トン

グループCO₂排出量

2024年3月期

18.7万トン

2025年3月期

17.9万トン

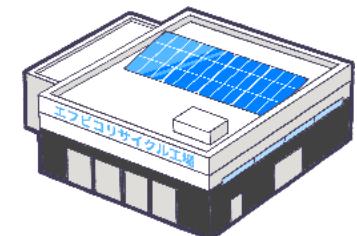
オフィス部門 0.3万トン
物流部門 0.2万トン

CO₂削減量の増加要因

- ① 太陽光発電による再生エネルギー導入
エコPSP製品のCO₂削減量 30% ▶ 37%
- ② エコ製品の販売が好調
106.2% (2025年3月期前年比 枚数)

CO₂排出量の減少要因

再生エネルギーの活用
省エネルギーの推進



エコ製品の販売拡大

2025年11月5日
中部第一工場 太陽光発電稼働開始

エコ製品の販売実績・回収重量

販売

エコ製品売上

913 億円

(2025年3月期)

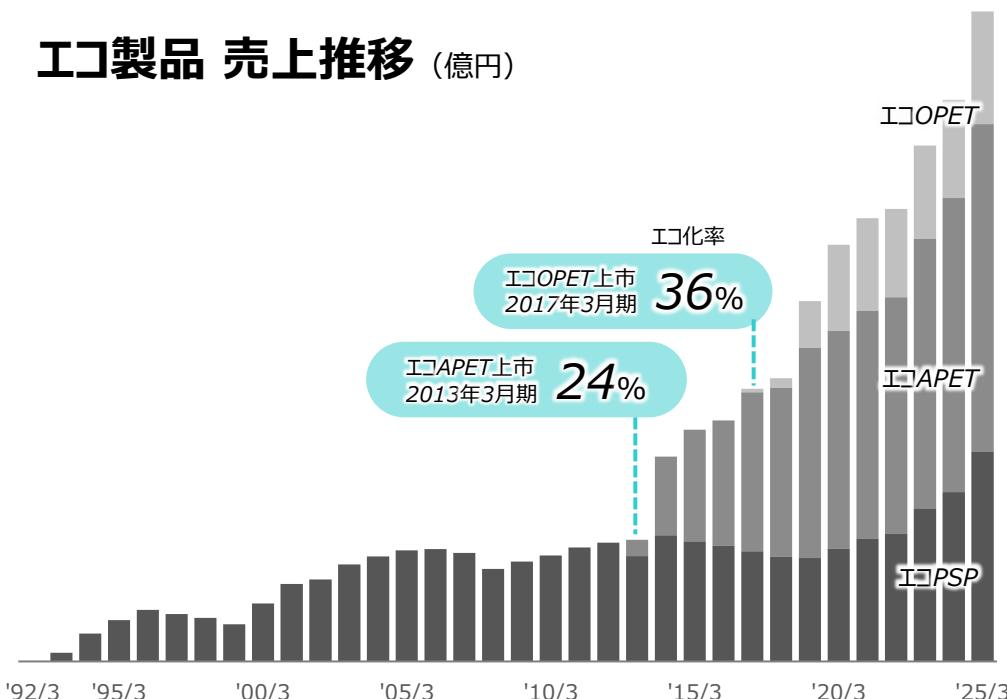
エコ化率

(枚数ベース)

51%

(2025年3月期)

エコ製品 売上推移 (億円)



回収・再資源化

回収・再資源化重量

(容器・PETボトル)

90,000トン

(2025年3月期)

製品販売重量に対する 使用済み製品の回収重量比率

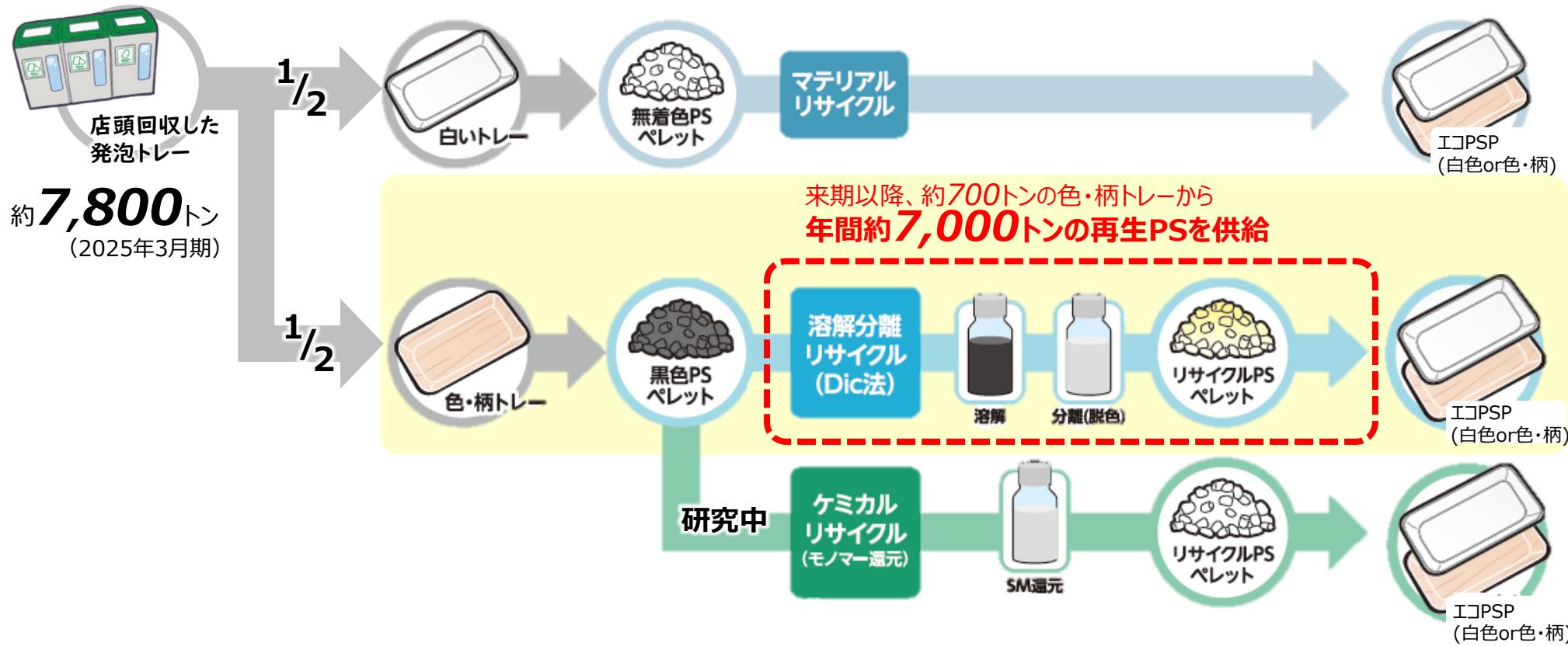
42%

(2025年3月期)

エコPSPの販売拡大に向けて

溶解分離リサイクルにより

エコPSP販売ケース数 来期以降 約30%増加



01. マーケットの状況
02. エコ戦略
- 03. エフィコグループのインフラ活用**
04. 新OPPシートによる用途開発
05. 企業価値拡大に向けて

全国をカバーする物流ネットワーク

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーする

物流ネットワーク



関西工場・関西ハブセンター

稼働時期：2023年1月

投資額：266億70百万円

延床面積：79,883.65m²

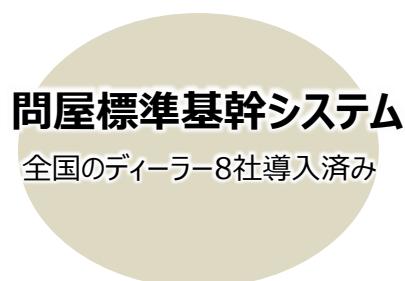


包装資材問屋との連携

M&A実績



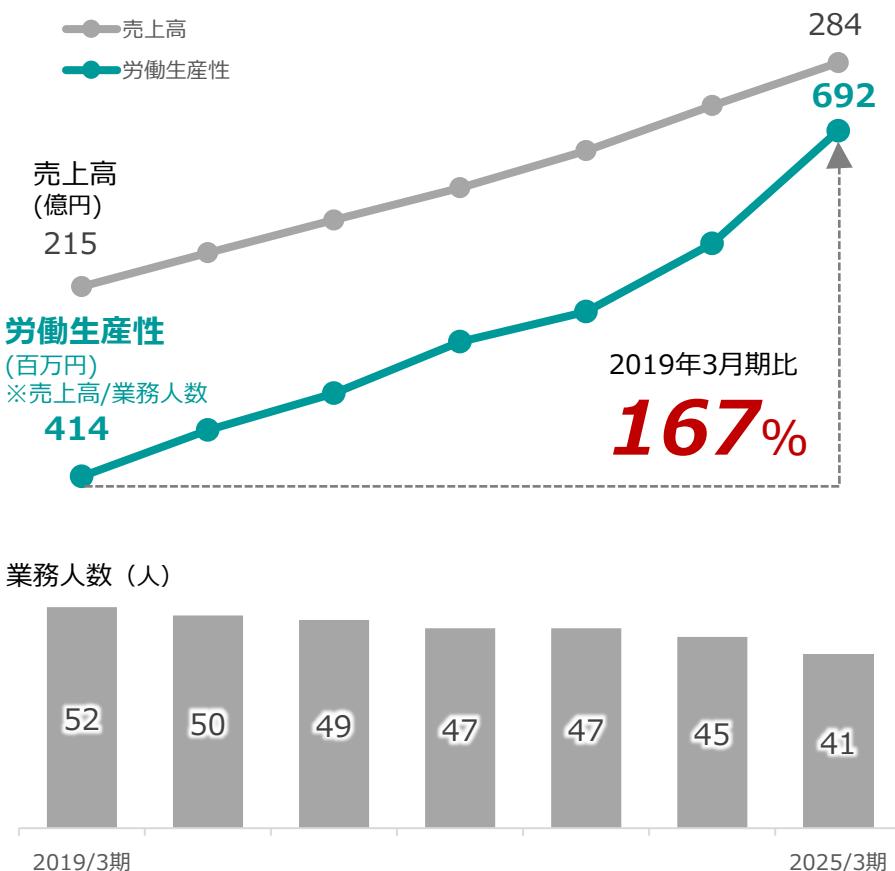
エフピコグループのインフラ



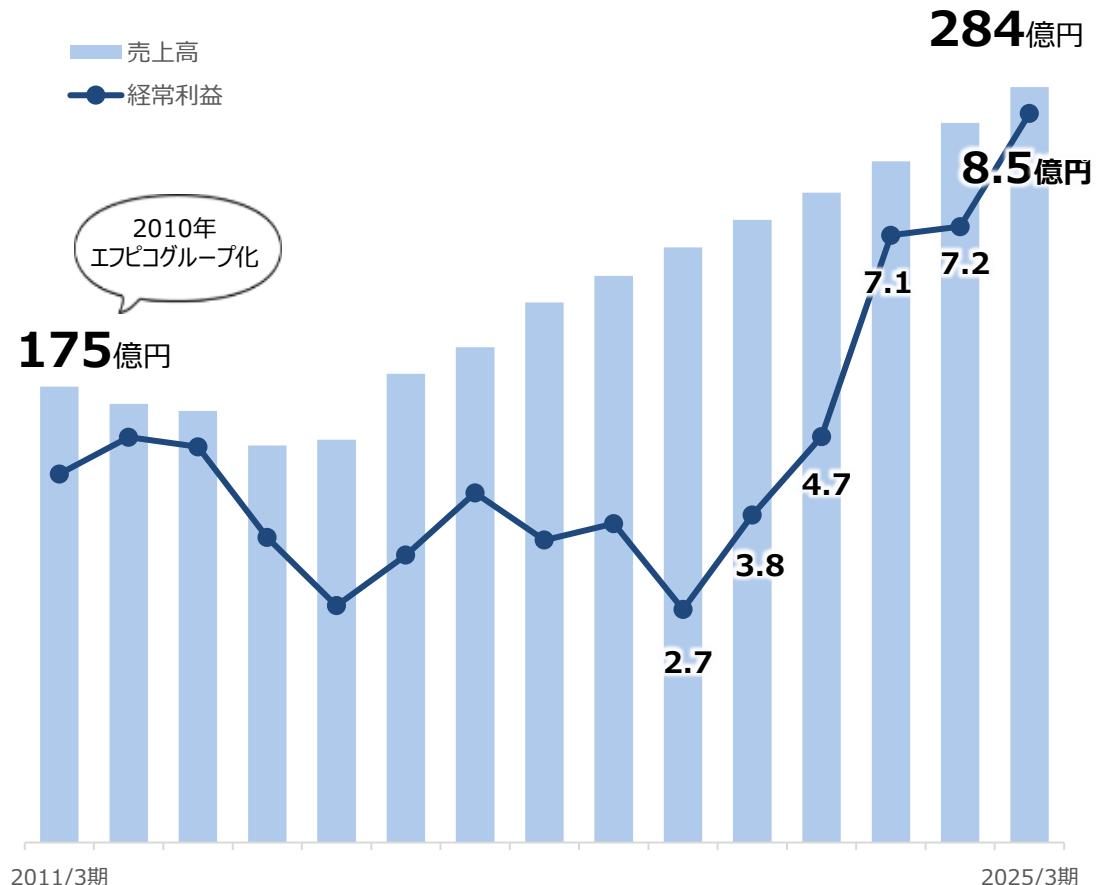
エフピコインター パック 業績推移

グループインフラを活用した成長モデルを問屋に拡大

業務労働生産性



売上高・経常利益



海外M&A LSSPI社

Lee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.

所在地：マレーシア

株式取得日：2022年8月31日

取得総額：約167億円（当社取得額：約67億円）

持分比率：三井物産 60%、エフピコ 40%

売上高：79億円（2025/3期）※売上構成 国内 6：海外 4



APETカップ
(Wストローレス)



フルーツトレー



OPSフードパック



耐熱PP容器
(汁漏れ抑制)

ステップ¹

3か年計画「2倍の生産性へ」

- ▶ 成形機、押出機等の新設備の導入
- ▶ 製品開発技術の向上
- ▶ 自動化、省人化の推進

ステップ²

マレーシア・シンガポールで 圧倒的シェア獲得

ステップ³

さらに拡大が期待される 東南アジア市場の礎へ

01. マーケットの状況
02. エコ戦略
03. エフピコグループのインフラ活用
- 04. 新OPPシートによる用途開発**
05. 企業価値拡大に向けて

世界初の新シートを開発

エフピコ独自の成形可能な 新OPPの開発に成功

一般的な OPP

- 厚さ：30～50ミクロン
- 用途：食品用軟包装資材 等



単層
シート



新OPP透明容器サンプル

エフピコ独自 新OPP

新OPPシート

- 厚さ：150～300ミクロン
- 食品容器用途：冷凍～耐熱まで幅広い温度帯に対応
- 工業製品用途：モビリティ部品などを想定
- 生産予定地：坂東新工場（茨城県 坂東市）

※イメージ

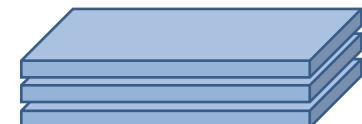
単層シート



積層OPPプレート

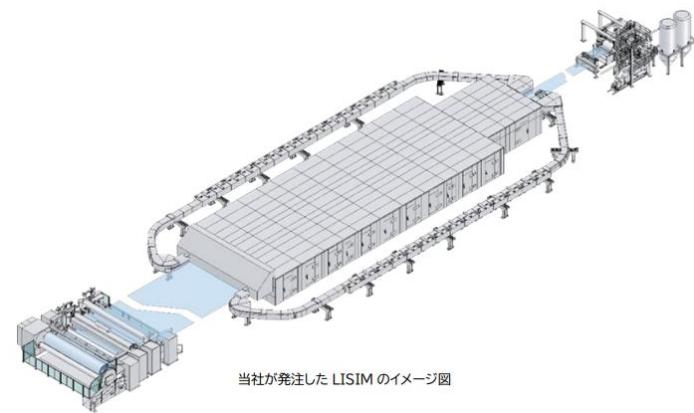
- 厚さ：1～3ミリ
- 開発タイプ：
 - ：2027年初旬 高剛性タイプ 上市予定
 - ：2029年初旬 易成形タイプ 上市予定
- 工業製品用途：建設資材 住設資材 太陽電池などを想定
- 生産予定地：神辺工場（広島県 福山市）

積層プレート



新OPP事業の見通し

- 2024年 4月 新OPPシートの開発に成功と発表
11月 新OPPシート製造装置「LISIM」を発注
- 2025年 9月 積層OPPプレート製造装置 発注
- 2026年春頃 坂東新工場 投資額決定・事業概要説明
- 2027年初旬 積層OPPプレート製造装置 商業生産開始（神辺工場）
特殊OPPフィルムを積層した「高剛性タイプ」上市予定
- 2028年 新OPPシート製造装置「LISIM」を稼働予定（坂東新工場）
積層OPPプレート「易成形タイプ」上市予定

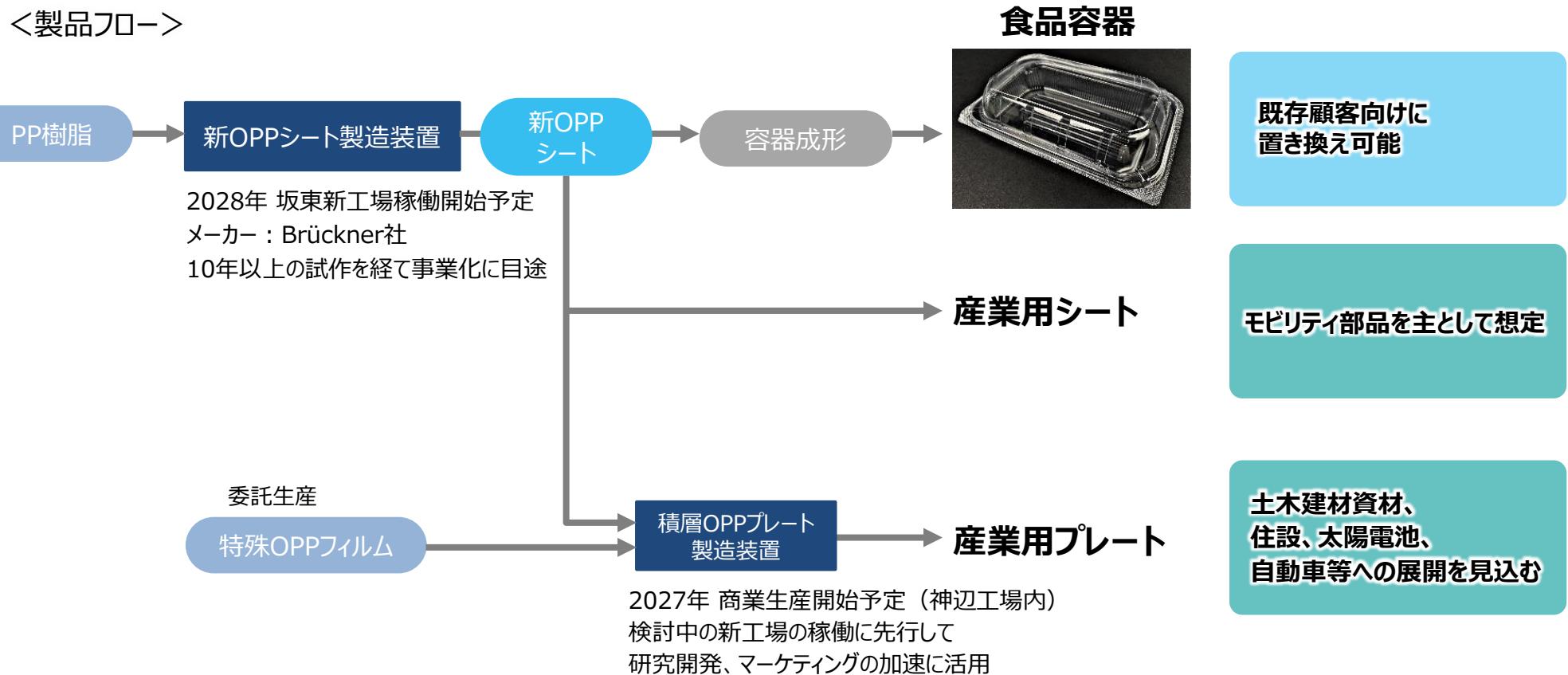


当社が発注した LISIM のイメージ図

新OPP事業の概要

- ROE向上に資する成長投資として、償却負担を含むコストを踏まえた売価を設定
- 営業利益率10%を基準とし、利益率を上げる方向を見込む
- 食品容器生産工場と物流バックアップ機能との施設共有により投資リスクを低減

<製品フロー>



新OPPシートの開発用途

エフピコ
開発品

インモールド成形品



エフピコ
開発品

オーバーレイ成形品



新OPPシートの将来の開発用途（イメージ）



出典：トヨタ自動車株式会社ホームページ「Toyota Europe Newsroom」
<https://newsroom.toyota.eu/new-land-cruiser-200/>から引用

新OPPシートのメリット

- 剛性アップ+耐衝撃性向上
⇒製品の**薄肉軽量化**または**使用樹脂のコスト低減化**
- 新OPPシートを加飾した**加飾ラベル**を用い、
成形樹脂にPPを使用することで成形品のモノマテリアル化

積層OPPプレートの開発用途

従来素材からの代替により高付加価値化を見込む



土木建設資材



住設資材



太陽電池資材



積層OPPプレートのメリット

- PP100%
⇒**軽量（低比重）でリサイクル性に富む**
- 高物性バランス（高剛性・高韌性）
⇒これまで物性不足によって代替が不可能であった素材からのPP化を可能
高まる**モノマテリアル化**に貢献

01. マーケットの状況
02. エコ戦略
03. エフィコグループのインフラ活用
04. 新OPPシートによる用途開発
- 05. 企業価値拡大に向けて**

競争優位性

売上高

2022/3期

競合4社
1,800億
エフピコ
1,957億

2025/3期

競合4社
1,880億
エフピコ
2,356億

経常利益

2022/3期

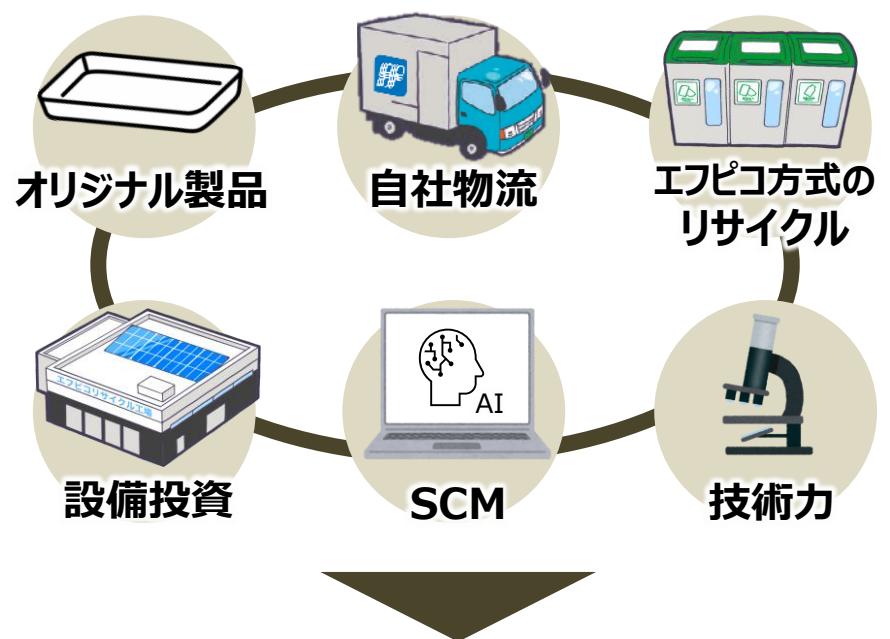
競合4社
66億
エフピコ
167億

2025/3期

競合4社
47億
エフピコ
184億

うち2社は赤字

※当社調べ



エフピコの競争優位性

価格イニシアティブの確立

エコ・軽量化製品の拡大

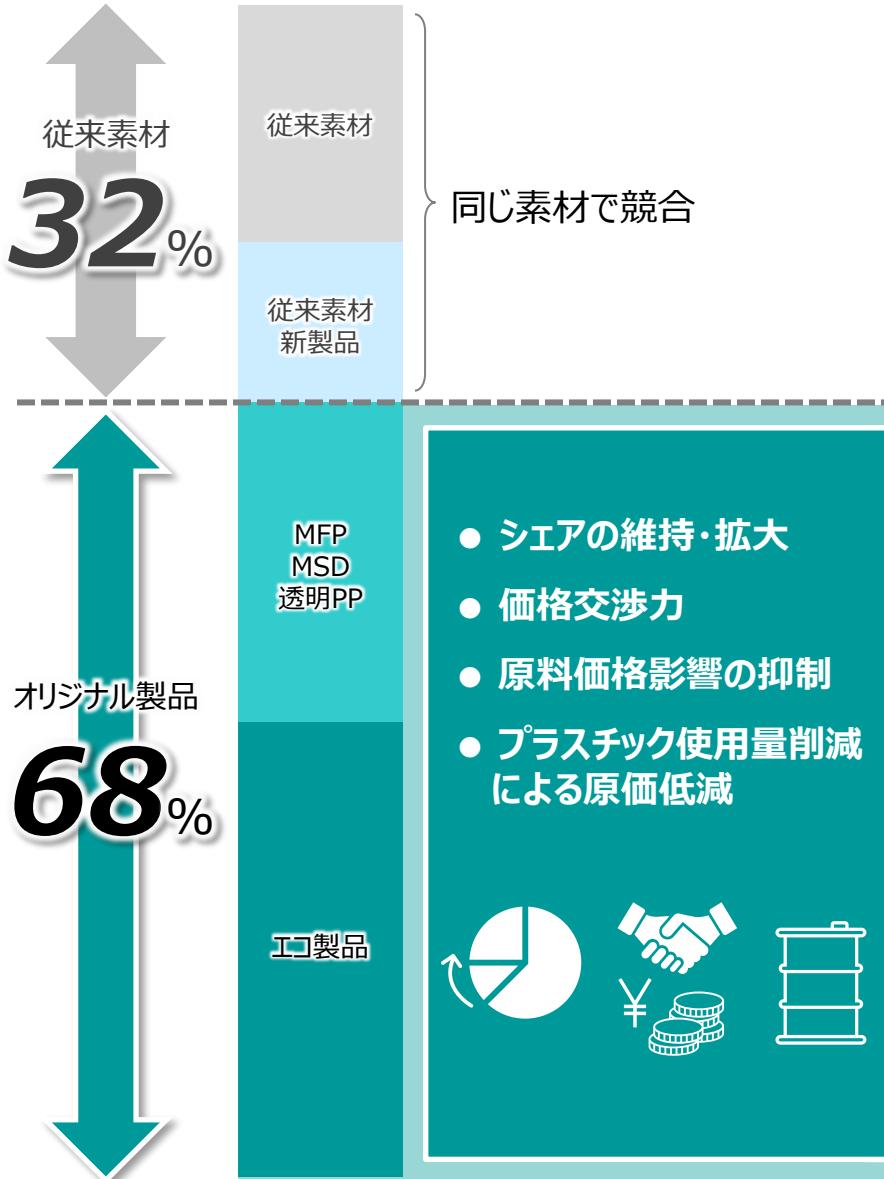
安定供給

グループインフラを活用した問屋連携

新素材の開発

オリジナル製品拡大による収益性向上

2025/3期 製品売上構成比（枚数ベース）



オリジナル製品の比率を向上

非発泡容器 (HIPS)

切り替え

- ✓ 新低発泡PSP容器
▶発泡化により原価低減



- ✓ APデリオ・MSDデリオ
▶自動化に対応した強度と軽量化を両立



- ✓ 耐寒PPiP-タルク
▶冷凍マーケットの開拓



- ✓ エコPSP : 溶解分離リサイクル
▶エコPSP販売ケース数30%増加



- ✓ エコAPET
▶押出機増設によってエコ原料の生産能力15%増強



成長戦略

既存事業での安定的な成長に加えて、
事業領域拡大により**1桁後半の成長を目指す**

'30/3期目標 売上 **3,000**億円
経常利益 **300**億円

成長領域

新OPP 200
海外 100
M&A 150
冷凍 150
農産 50

産業分野への進出による新事業への挑戦

既存事業の横展開や
グループインフラの活用によるマーケットの拡大

売上高
'25/3期
2,356億円

既存事業

既存事業は、シェアの拡大や収益性の向上により、
年平均2~3%の安定成長を見込む

財務戦略 計画 (2026/3期～2028/3期)

- 営業キャッシュフローおよび資金調達を原資とし、投資・株主還元を戦略的に配分
- 事業に必要なキャッシュポジションは150～200億円
- 格付A格を維持する範囲で有利子負債を活用

2026/3期～2028/3期（3年間累計）

営業CF
860億円

株主還元
160億円

成長投資
750億円



有利子負債の活用

新工場の建設（検討中）

- 新OPPシートによる高機能容器の開発
- 新OPPシート、積層OPPプレートによる産業分野における用途開発
- 物流バックアップ

既存事業・維持更新

- リサイクルの技術開発
- 海外事業の強化
- 維持更新投資等

M&Aの検討

- グループインフラを活用した問屋連携
- 業界再編

配当

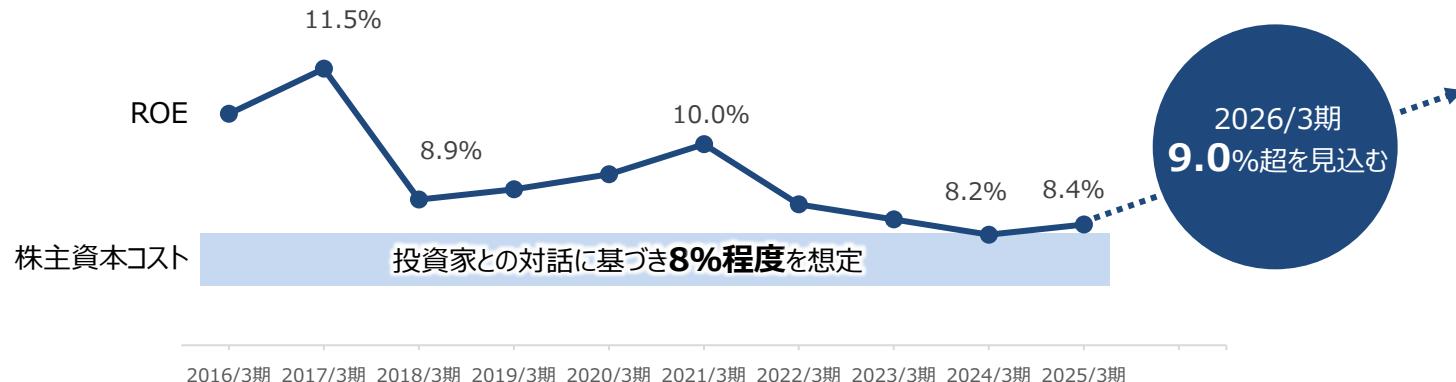
- 配当性向40%を目指す原則として減配せず累進配当

追加還元検討

- 自己株式取得は、資本構成の最適化に加えて、戦略投資や株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施

ROEの向上に向けた取り組み

ROEの推移

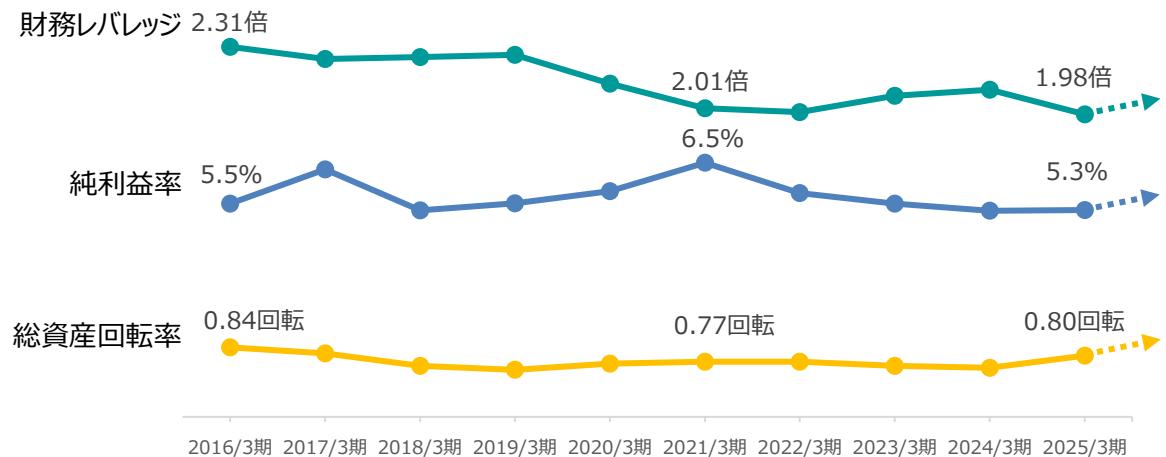


中長期的なROE向上へ

収益性の向上

- ・原料価格高騰に対する
価格インシアティブ
- ・冷凍マーケットのシェア獲得
- ・海外事業の成長
- ・新OPPによる収益拡大

ROE構成要素の推移



資産効率向上

- ・グループインフラを活用し
包材問屋との連携強化
- ・M&A推進・業界再編

財務レバレッジ

- ・有利子負債の有効活用
- ・累進配当による還元強化

株主還元

● 配当方針

目途とする連結配当性向**40%**、原則として減配せず、累進配当を実施

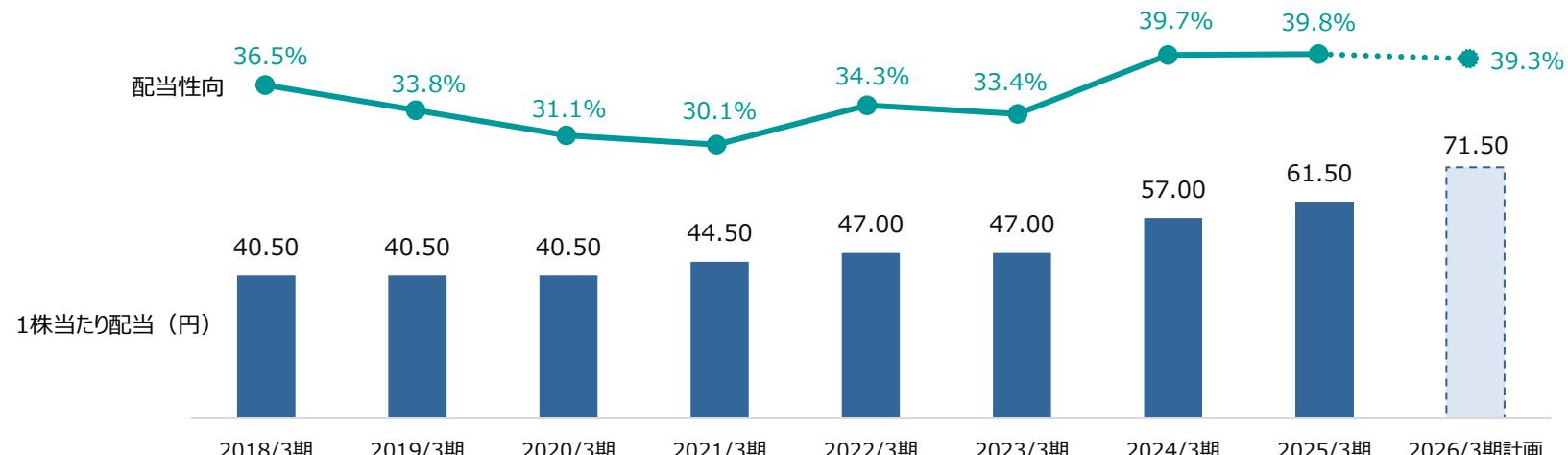
中長期的な利益成長に応じた安定的な配当額の向上を目指す

►2026/3期の1株当たり配当は期初計画から**10円**増配し、**71円50銭**に修正

►1株あたり利益を高めることで増配を図る

● 自己株式の取得

財務の健全性を維持しつつ、戦略投資や株価水準等を勘案し、機動的・柔軟な還元を検討



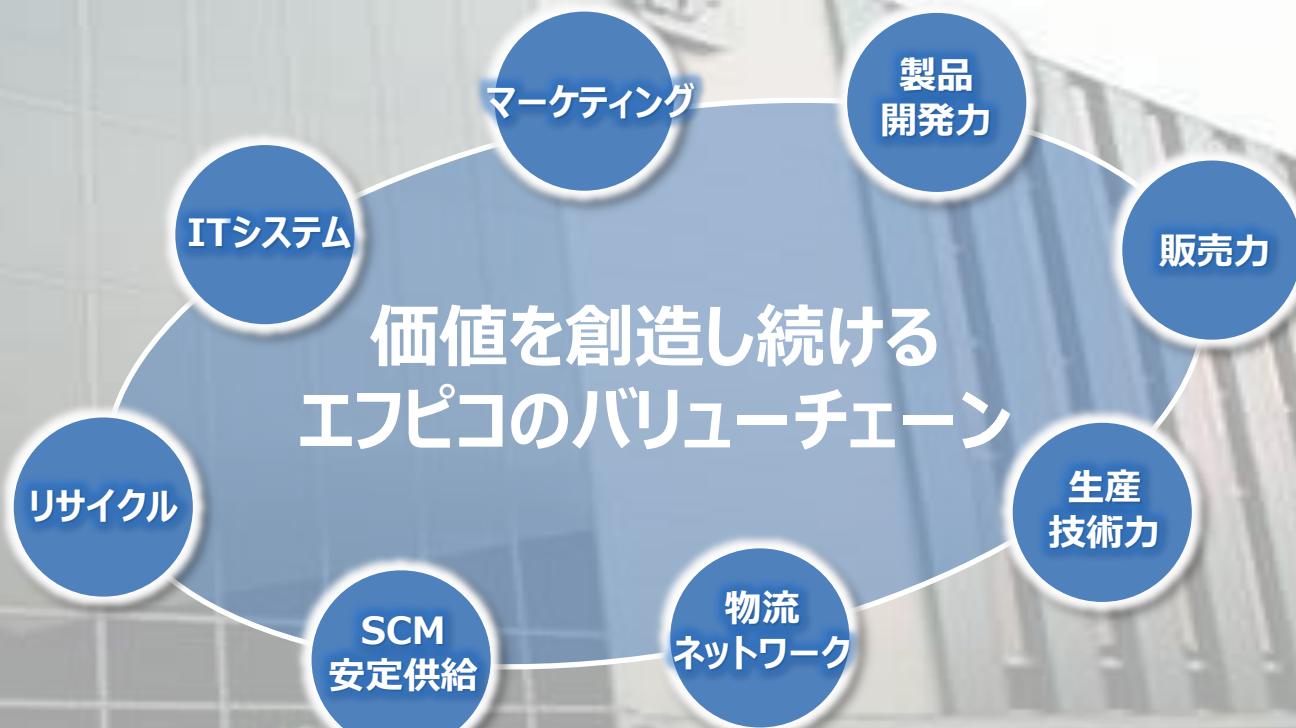
(単位：億円)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
配当	33	33	33	37	38	38	46	50
自己株式の取得	—	—	—	40	—	—	30	—
合計	33	33	33	77	38	38	76	50
総還元性向	36.5%	33.8%	31.1%	62.7%	34.3%	33.4%	65.1%	39.8%

企業価値拡大に向けて

「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」

「どこよりも競争力のある価格で」

「必要なときに確実にお届けする」



添付資料

用語解説

★:オリジナル製品

PS	ポリスチレン
PET	ポリエチレンテレフタート
PP	ポリプロピレン
★ エコPSP容器	スーパーで店頭回収された発泡PS容器と工場内端材を原料とするリサイクル発泡PS容器（1992年販売開始）
★ エコAPET容器	スーパーで店頭回収されたPET 透明容器・PETボトル及び工場内端材を原料とする リサイクルPET透明容器（2012年販売開始） 耐熱温度 + 60℃
★ エコOPET容器	エコAPET容器と同じ原料を使用する二軸延伸PET（OPET）シートから成形したリサイクルOPET透明容器（2016年販売開始） 耐油性に優れ、透明度も高くOPS容器と同等の耐熱性を実現 耐熱温度 + 80℃
★ 新低発泡PSP容器	非発泡容器と同等の強度及びシャープな形状を維持しながら、プラスチック使用量を削減した発泡PS容器 非発泡容器と比較して50%～60%軽量化
★ マルチFP(MFP)容器	-40℃～+110℃の耐寒・耐熱性、耐油性及び断熱性に優れた発泡PS容器（2010年販売開始）
★ マルチソリッド(MSD)容器	マルチFPの端材を活用し、その特性を維持しつつシャープな形状を実現した非発泡PS容器（2012年販売開始） 耐熱温度 + 110℃
★ 透明PP容器	標準グレードのPP原料から、OPSと同程度の透明度を実現した透明PP容器 耐熱温度 + 110℃（2012年販売開始）
★ 耐寒PPiP-タルク容器	二種類の無機物を配合することで、従来品である耐寒PPと比較してプラスチック使用量を25%削減した耐寒PPフィラー容器 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度、重量を保持
OPS容器	従来からの二軸延伸PSシートから成形した透明容器 耐熱温度 + 80℃
HIPS容器	剛性に優れ成形性が良い非発泡PS容器 耐熱温度 + 90℃
溶解分離リサイクル	マテリアルリサイクルにより生産された黒色PSペレットを溶解、脱色したうえで、食品容器向けの再生PS原料を生産する手法 DIC(株)が開発した世界初の技術（2024年11月稼働予定）
PC（プロセスセンター）	食品の生産及び配送を一括して行うセンター
配送センター	製商品の入荷から受注・配車・出荷・トレー回収までを行う物流拠点
ハブセンター	複数の棟をソーターシステムで連結し、出荷の自動仕分け、集約を行う配送センター
DC（ディストリビューションセンター）	包材問屋向けにケース出荷を行う物流部門
PC（ピッキングセンター）	スーパー・マーケット向けの小ロットピッキング出荷を行う物流部門
選別センター	店頭回収した発泡PS容器を白と色に、透明容器をPS・PET・PP等の素材に選別するリサイクル拠点

業績推移①

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

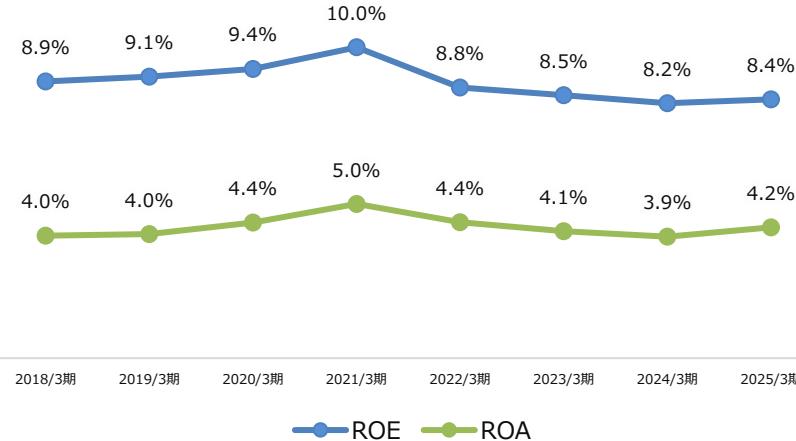
(百万円)

	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期
売上高	173,580	181,171	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100	235,628
営業利益	12,884	13,949	15,507	18,763	15,884	16,703	16,429	18,471
経常利益	13,548	14,861	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780	18,451
純利益	9,178	9,901	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724	12,486
償却前経常利益	25,255	28,031	29,807	32,991	30,340	31,509	31,833	33,203
売上高経常利益率	7.8%	8.2%	8.7%	10.3%	8.5%	8.2%	7.6%	7.8%
ROE	8.9%	9.1%	9.4%	10.0%	8.8%	8.5%	8.2%	8.4%
ROA（総資産純利益率）	4.0%	4.0%	4.4%	5.0%	4.4%	4.1%	3.9%	4.2%
EPS（円/株）	111.01	119.75	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50	154.46
配当（円/株）	40.50	40.50	40.50	44.50	47.00	47.00	57.00	61.50
配当性向	36.5%	33.8%	31.1%	30.1%	34.3%	33.4%	39.7%	39.8%
自己株式取得	—	—	—	3,999	—	—	2,999	—
総資産	244,147	249,332	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580	292,226
純資産	106,219	112,198	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844	154,114
現預金	15,659	19,151	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707	19,020
有利子負債	91,991	91,402	80,341	73,459	80,174	102,008	92,785	80,513
自己資本比率	43.4%	44.8%	49.0%	50.3%	50.2%	46.7%	48.6%	52.5%
設備投資	29,891	14,038	12,214	19,412	23,361	30,853	9,591	16,112
減価償却費	11,706	13,170	13,532	13,609	13,636	14,180	15,052	14,751
研究開発費	1,197	1,159	1,229	1,195	1,154	1,295	1,483	1,543
在庫回転月数（ヶ月）	1.53	1.54	1.48	1.44	1.44	1.56	1.57	1.55
リサイクル回収重量（トン）	55,262	75,730	82,700	85,000	83,330	91,400	90,500	90,000
リサイクル回収拠点数（カ所）	9,150	9,260	9,390	9,800	10,000	10,500	10,680	11,000

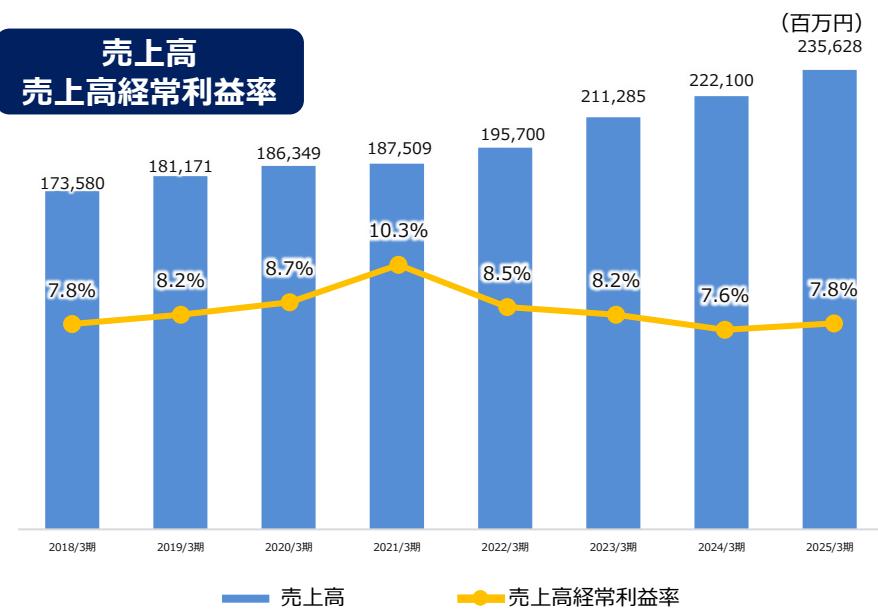
業績推移②

※2022年3月期より収益認識会計基準変更、2021年3月期のみ遡及適用

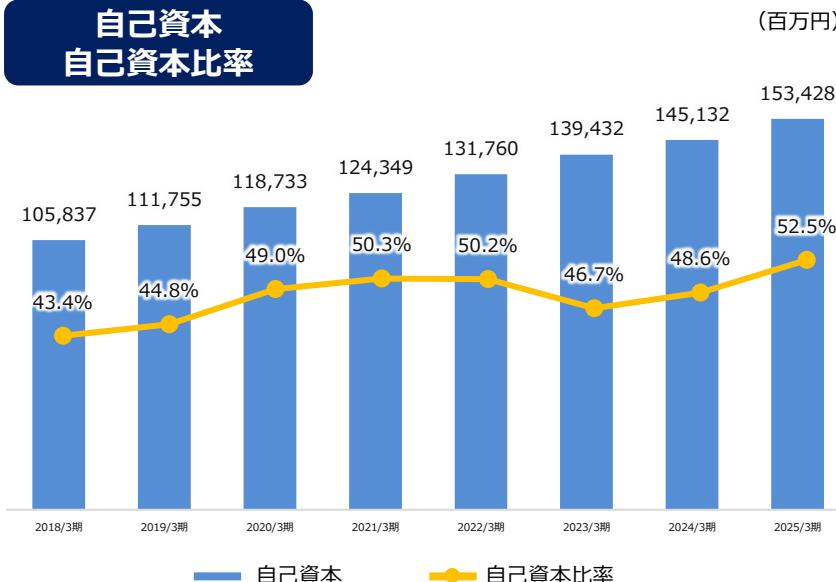
ROE ROA



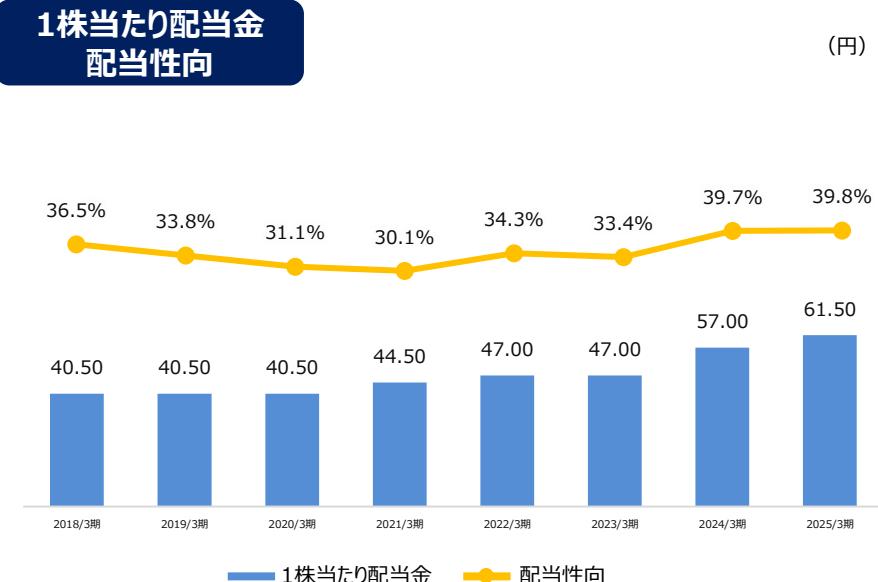
売上高 売上高経常利益率



自己資本 自己資本比率



1株当たり配当金 配当性向



自己資本

自己資本比率

1株当たり配当金

配当性向

経常利益 増減要因 推移

单位：億円

	'18/3			'19/3			'20/3			'21/3			'22/3			'23/3			'24/3			'25/3			'26/3計画		
	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	通期	上	下	
前期 経常利益	79.1	78.3	157.4	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.0	109.1	173.2	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5
原料価格	-13.0	-13.0	-26.0	-14.8	-15.5	-30.3	+2.5	+5.2	+7.7	+11.0	+3.0	+14.0	-9.9	-36.1	-46.0	-24.4	+23.8	-0.6	-17.5	-13.9	-31.4	-10.0	-23.0	-33.0	-5.0	+10.5	+5.5
販売価格	-	+4.5	+4.5	+13.6	+28.0	+41.6	+10.5	-	+10.5																		
販売活動	+6.0	+3.2	+9.2	+4.5	+7.2	+11.7	+3.5	+5.0	+8.5	+7.2	+9.8	+17.0	+11.0	+6.0	+17.0	+4.0	+3.5	+7.5	+56.3	+4.0	+60.3	+11.2	+60.0	+71.2	+45.0	+4.0	+49.0
生産	-3.2	-4.0	-7.2	-0.5	-	-0.5	+1.0	+1.5	+2.5	-1.5	+3.5	+2.0	+3.5	-1.5	+2.0	+1.5	-1.0	+0.5	-19.5	+7.4	-12.1	+3.0	-5.0	-2.0	-2.0	-2.0	-4.0
物流	+0.5	+1.0	+1.5	-1.5	-3.0	-4.5	-4.0	-3.5	-7.5	-0.5	+1.5	+1.0	+2.5	+2.5	+5.0	-	-	-	-4.0	-3.0	-7.0	-6.0	-5.7	-11.7	-7.0	-5.0	-12.0
グループ会社	-	+1.5	+1.5	+0.5	+1.5	+2.0	+2.0	+0.1	+2.1	-0.7	+6.5	+5.8	+4.0	+2.0	+6.0	+2.0	+10.9	+12.9	-2.0	-3.7	-5.7	+3.0	±0.0	+3.0	-1.0	-1.0	-2.0
経費増減	-3.1	-2.3	-5.4	-3.3	-3.6	-6.9	-5.9	-3.8	-9.7	-4.3	-4.4	-8.7	-7.6	-3.2	-10.8	-8.1	-5.9	-14.0	-5.1	-4.4	-9.5	-8.3	-2.5	-10.8	-1.7	-4.3	-6.0
増減計	-12.8	-9.1	-21.9	-1.5	+14.6	+13.1	+9.6	+4.5	+14.1	+11.2	+19.9	+31.1	+3.5	-30.3	-26.8	-25.0	+31.3	+6.3	+8.2	-13.7	-5.4	-7.1	+23.8	+16.7	+28.3	+2.2	+30.5
当期 経常利益	66.3	69.2	135.5	64.8	83.8	148.6	74.4	88.3	162.7	85.6	108.2	193.8	89.1	77.9	167.0	64.1	109.2	173.3	72.3	95.4	167.8	65.2	119.3	184.5	93.5	121.5	215.0

戦略投資



世界初の素材開発

- 2010年 マルチFP製品 上市
- 2012年 マルチソリッド製品 上市
- エコAPET 製品 上市
- OPET 製品 上市
- 新透明PP 製品 上市
- 2014年 PPi-タルク 製品 上市
- 2022年 耐寒PPi-タルク 製品 上市

生産・リサイクル強化

- 2012年 関東八千代工場
- 2016年 中部エコペット工場
- 2017年 関東エコペット工場
- 2018年 エピコアルライト工場
- エピコグラビア工場
- 2022年 中部第一工場
- 2023年 関西工場
- 2024年 関西選別センター

物流網強化

- 2012年 中部ピッキング
- 2014年 福山クロスドックセンター
- 八王子配送センター
- 2020年 九州配送センター拡充
- 福山ハブセンター拡充
- 2021年 中部クロスドックセンター拡充
- 2023年 関西ハブセンター

人への投資

- 2014年 総合研究所・人材開発研修センター
- 2018年 広島営業所
- 2019年 エピコインターパック本社
- 単身寮PicoHouse(総戸数:473戸)
 - 2017年 1号館(150戸)
 - 2号館(102戸)
 - 2020年 3号館(63戸)
 - 4号館(18戸)
 - 2022年 5号館(140戸)

▼
電子レンジ・冷凍市場拡大

▼
ESG投資拡大

▼
路線便値上がり

▼
人手不足

株主との対話の推進について

● 機関投資家向け 各種説明会の実施（2023年度～2024年度）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（スピーカー）
決算関連			
11月	第2四半期 決算説明会	業績予想および 企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役会長 代表取締役社長 専務取締役（経理財務・IR担当）
5月	決算説明会		
その他イベント			
2023年 6月	国内証券 トップミーティング	業績動向および成長戦略、当社製品の体験	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2023年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフィコ方式リサイクルの認知向上	IR担当、部門長
2023年12月	国内投信 機関投資家工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長
2024年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2024年 9月	国内投信 個人投資家向け説明会	エフィコ方式リサイクルの認知向上、当社製品の体験	IR担当
2025年 3月	国内証券 海外投資家カンファレンス	業績動向および成長戦略	代表取締役会長、専務取締役（経理財務・IR担当）
2025年 3月	国内投信 個人投資家向け工場見学	生産・物流・リサイクル工場等の施設見学、成長戦略	IR担当、部門長

● 個別対話概要（2023年度～2024年度）

延べ対話社数	投資家概要	対応者（案件により異なる）
約380社	中長期を中心とした幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アリスト、ファンドマネージャー、ESG担当等）	代表取締役会長、代表取締役社長、独立社外取締役、 専務取締役（経理財務・IR担当）、常務取締役（総務人事担当）、サステナビリティ推進室

● 個別工場見学（2023年度～2024年度）

延べ対応社数	対応拠点	対応者（案件により異なる）
約15社	関東、中部、関西、福山	専務取締役（経理財務・IR担当）、部門長

世界初の素材・シート

PP : ポリプロピレン

- ☆ 耐熱性がある : +110°C
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 発泡が難く、軽量化しにくい
- ★ コシ強度が低い
- ★ 耐寒性に劣る
- ★ 透明性が出難い

新透明PP

- ☆ 耐熱性がある : +110°C
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 透明性がOPSと同等

PET : ポリエチレンテレフタート

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 耐熱性が低い : +60°C
- ★ 比重が大きい

OPET : 二軸延伸PET

- ☆ 透明性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ☆ 耐熱性がOPSと同等 : +80°C
- ☆ 延伸により軽量化が可能
- ★ 成形が難しい

耐寒PP/IP-Tアルク

- ☆ 従来品である耐寒PPと比較して
プラスチック使用量を25%削減
- ☆ 従来品と同等の耐寒衝撃性、天地圧縮強度
重量を保持

PS : ポリスチレン



エビ[®]

PSP (発泡)



PP

PET (透明)

HIPS

OPS (透明)



: 発泡PS

PSP : 発泡PS

- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 軽量化が可能
- ☆ 断熱性が高い
- ★ 耐熱性が低い : +80°C
- ★ 耐油性に劣る

MFP : マルチFP



- ☆ 成形性が良い
- ☆ 原材料比率が低い
- ☆ 断熱性が高い
- ☆ 耐油性に優れる
- ★ 幅広い温度帯をカバー
-40°C ~ +110°C
- ☆ コシ強度がある
- ☆ 軽量化が可能

マルチFP端材の循環

MSD : マルチソリッド

: 非発泡PS

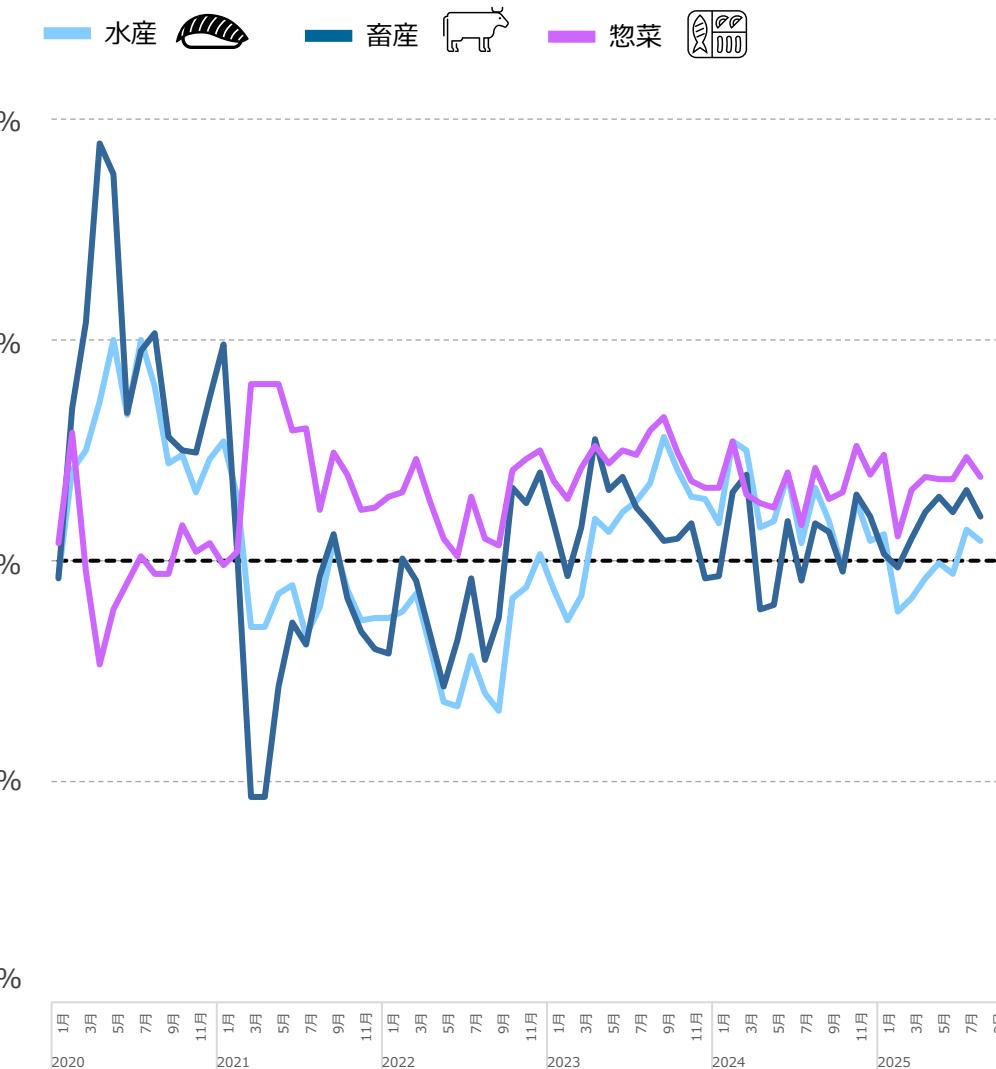
OPS : 二軸延伸PS

- ☆ 透明性がある
- ☆ 耐熱性 : +80°C
- ★ 耐油性に劣る
- ★ 軽量化に限界

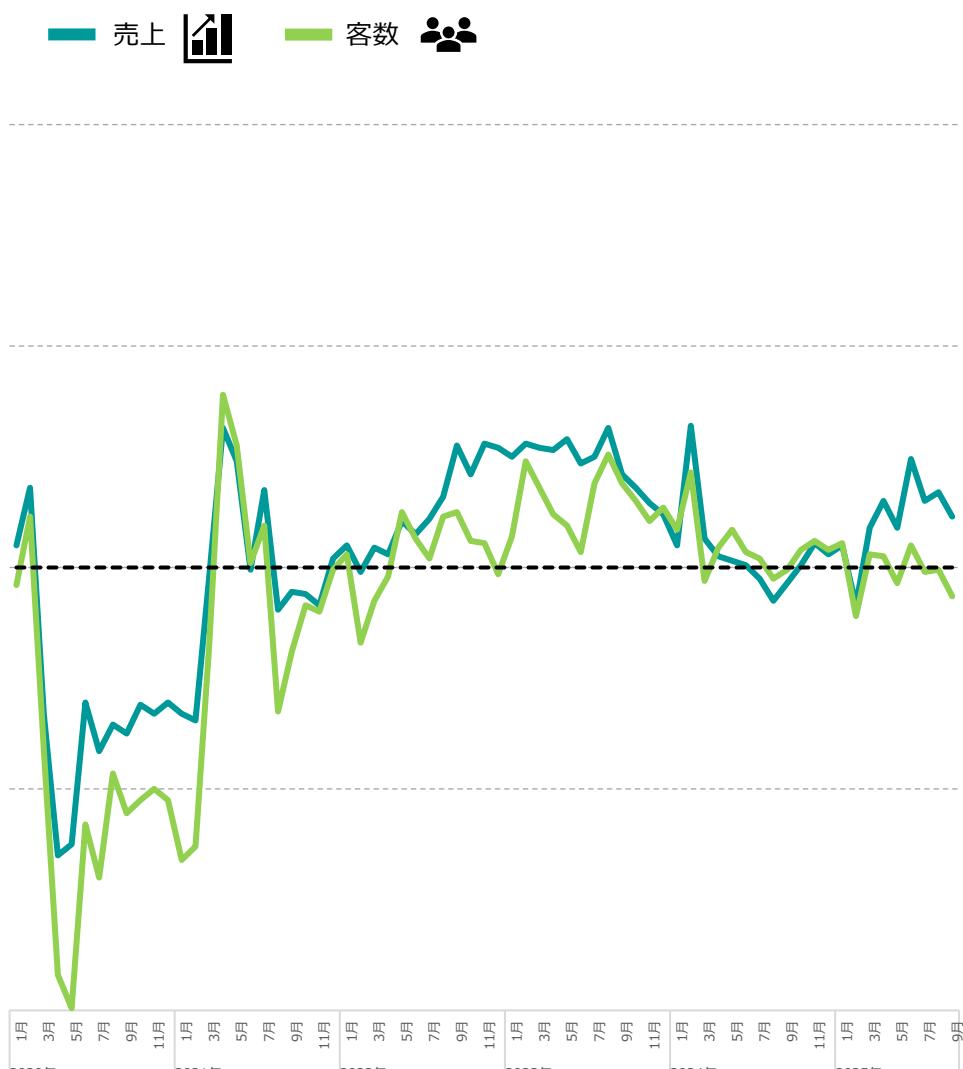
小売動向

出所：一般社団法人日本スーパー・マーケット協会（既存店、売上前年比）
出所：一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会（既存店、前年比）

スーパー・マーケット



コンビニエンスストア



中食市場の拡大

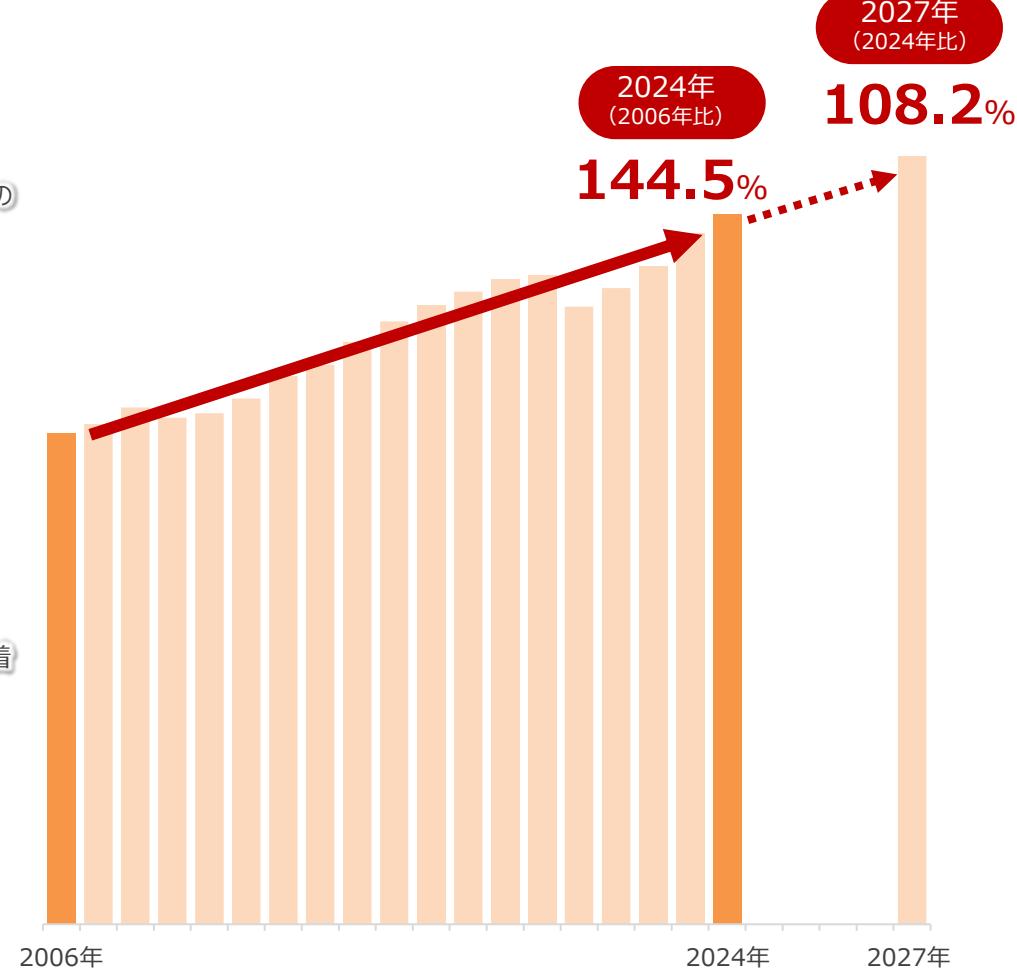
出典：一般財団法人 日本惣菜協会「2025年版惣菜白書」



中食市場規模推移

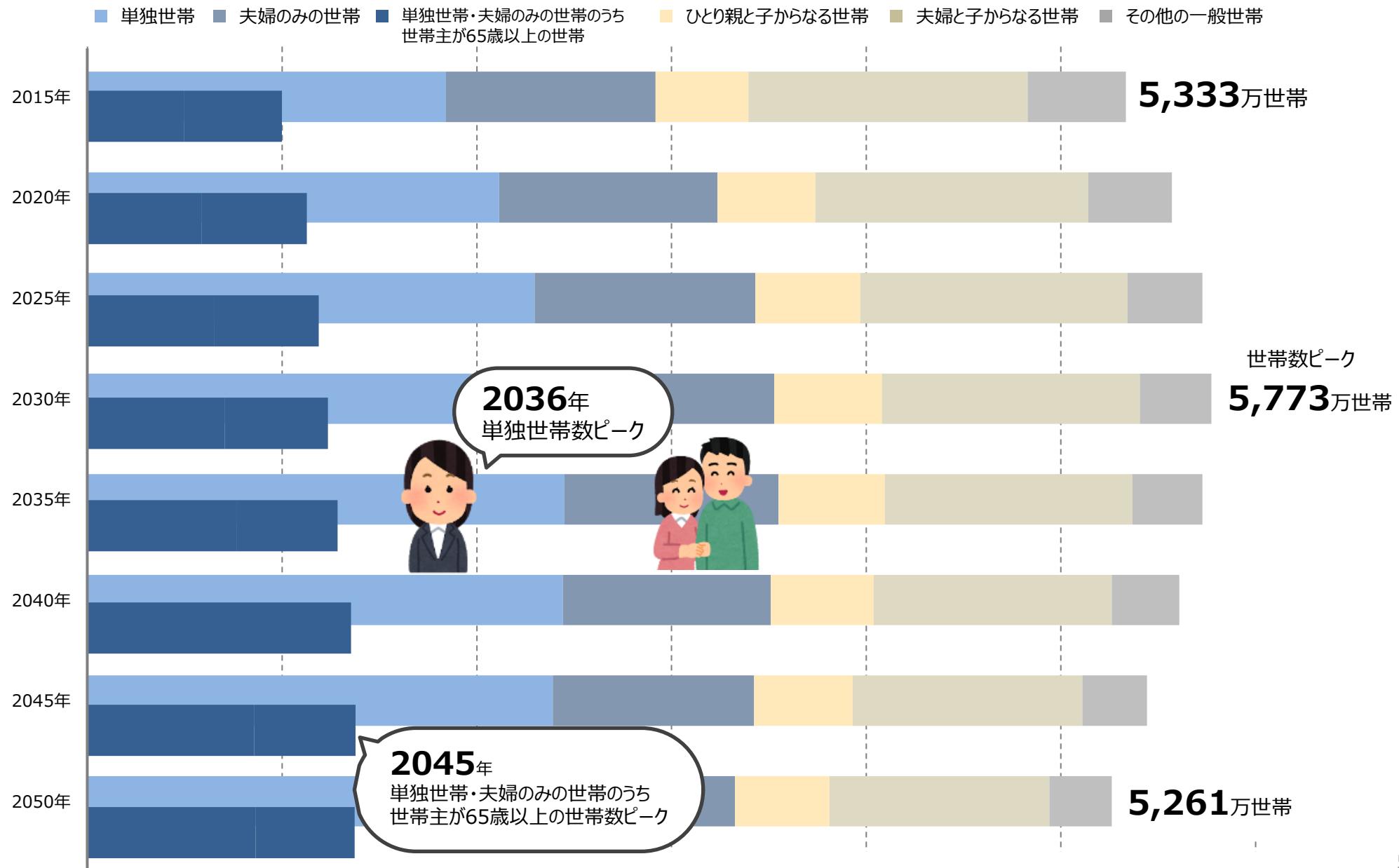
惣菜マーケットの
拡大

テイクアウト
デリバリーの定着



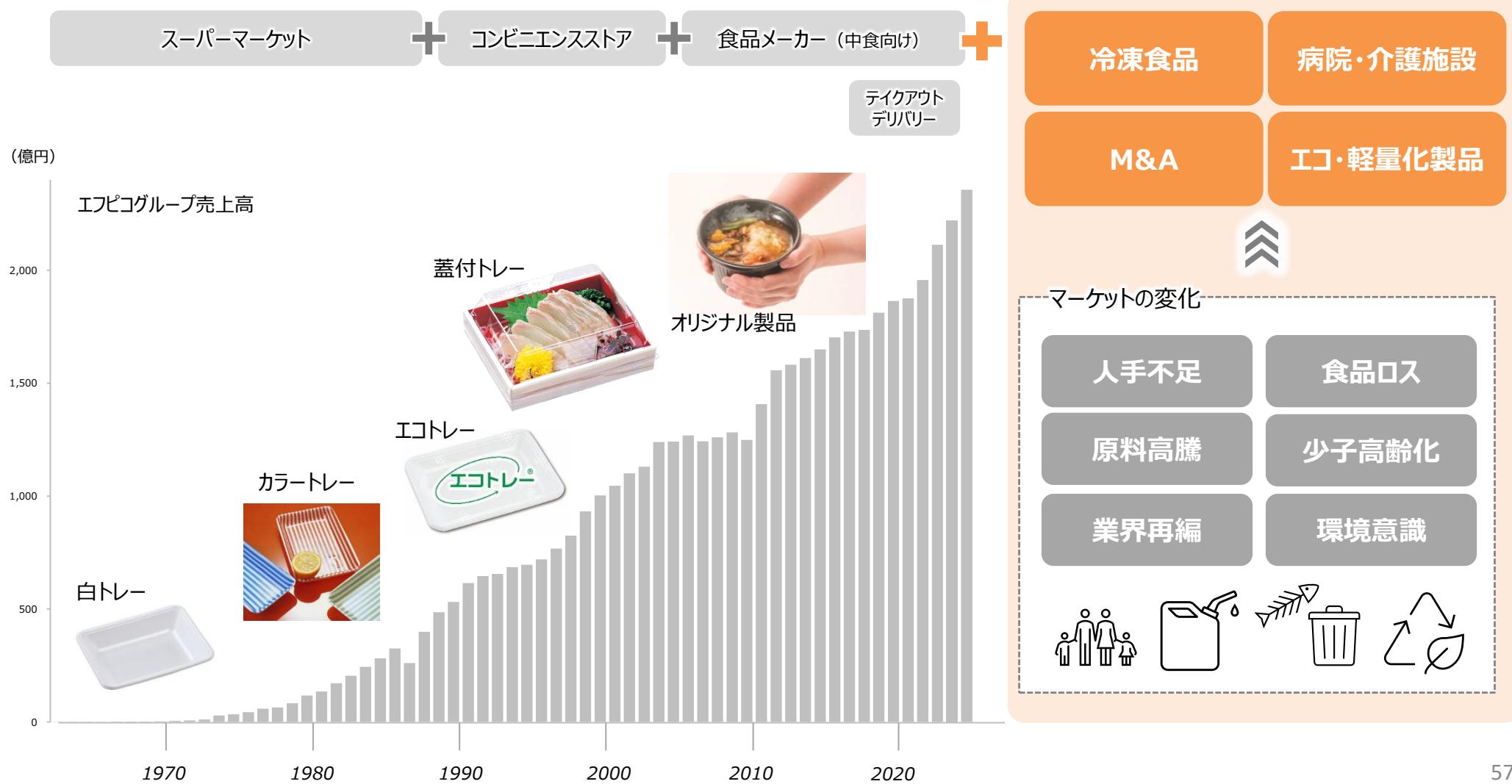
世帯数の推移

出典：国立社会保障・人口問題研究所データより、当社グラフ作成

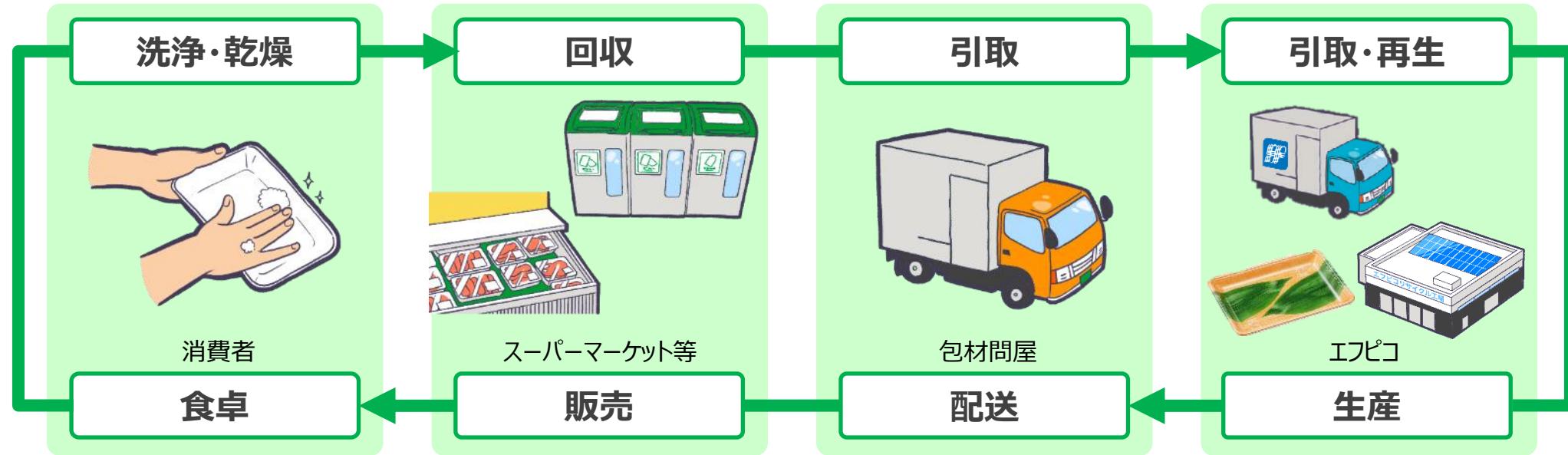


食品容器マーケットの推移と当社業績の拡大

マーケットの変化に応じた製品を提供／当社製品がマーケットの変化を創出



エフピコ方式のリサイクル



歴史

- 1980年 広島ゴミ問題

1990年 米国 マクドナルド不買運動

1990年 エフピコ方式のリサイクル開始

1992年 「エコトレー」の販売開始

1995年 容器包装リサイクル法制定

1997年 京都議定書

2008年 透明容器のリサイクル開始

2011年 PETボトルのリサイクル開始

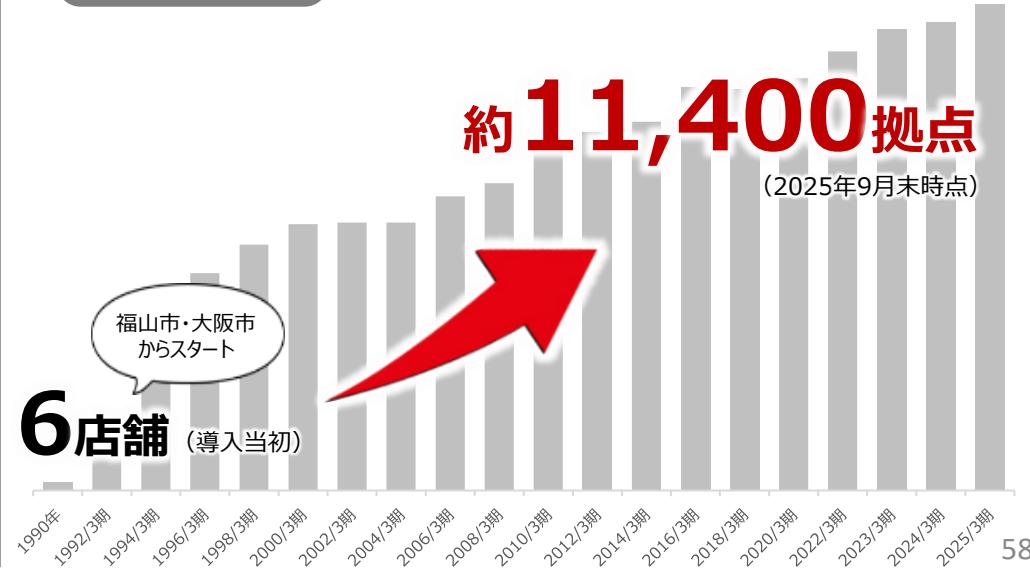
2012年 「エコAPET」の販売開始

2015年 パリ協定

2021年 プラスチックに係る資源循環の促進



回收抛点数



プラスチック資源の回収

※枚数・本数は、標準的なグラム数にて換算
PSP : 4 g、透明容器 : 10 g、PETボトル : 25 g

		回収重量				
		'21/3実績	'22/3実績	'23/3実績	'24/3実績	'25/3実績
容器 (PSP・透明容器)	回収ルート スーパー・マーケット店頭 指定法人ルート	10,000トン (約21億枚)	10,300トン (約22億枚)	10,400トン (約22億枚)	10,500トン (約22億枚)	11,000トン (約23億枚)
PETボトル	回収ルート 指定法人ルート スーパー・マーケット店頭 事業系ルート	75,000トン (約30億本)	73,000トン (約29億本)	81,000トン (約32億本)	80,000トン (約32億本)	79,000トン (約32億本)
回収重量合計		85,000トン	83,300トン	91,400トン	90,500トン	90,000トン
製品販売重量に対する 使用済み製品の回収重量比率		42%	40%	44%	44%	42%

製品販売重量に対する
使用済み製品の回収重量比率

全国を網羅する生産・物流拠点

各エリアで 生産・配送が可能

半径100kmで主要都市を含む

全人口の85%をカバーするネットワークが完成

エフピコの製造・物流・リサイクルネットワーク

- | | |
|-----------------|------|
| ● 生産工場 | 21拠点 |
| ● 配送・ハブセンター | 9拠点 |
| ● ピッキングセンター | 10拠点 |
| ● リサイクル工場 (PSP) | 3拠点 |
| ● PETリサイクル工場 | 3拠点 |
| ● 選別センター | 11拠点 |

- 中部工場/中部エコペット工場
富山工場
● 中部ハブセンター/ピッキングセンター
● 中部リサイクル工場/中部PETリサイクル工場
岐阜選別センター/松本選別センター/金沢選別センター

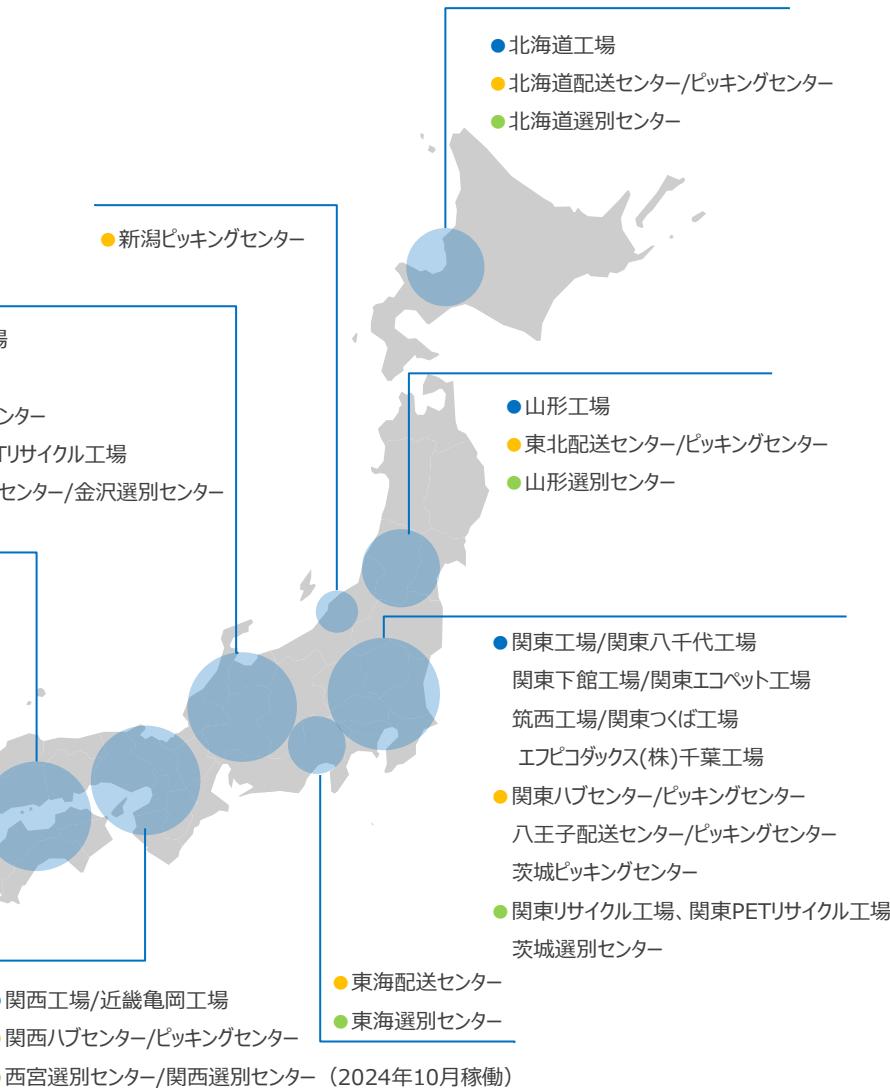
- 福山工場/神辺工場/笠岡工場
エフピコダックス(株)高知工場
● 福山ハブセンター/ピッキングセンター
● 福山リサイクル工場/選別センター

- 九州工場/鹿児島工場/南郷工場
● 九州配送センター/ピッキングセンター
● 西日本ペットボトルリサイクル/九州選別センター

非常用発電設備

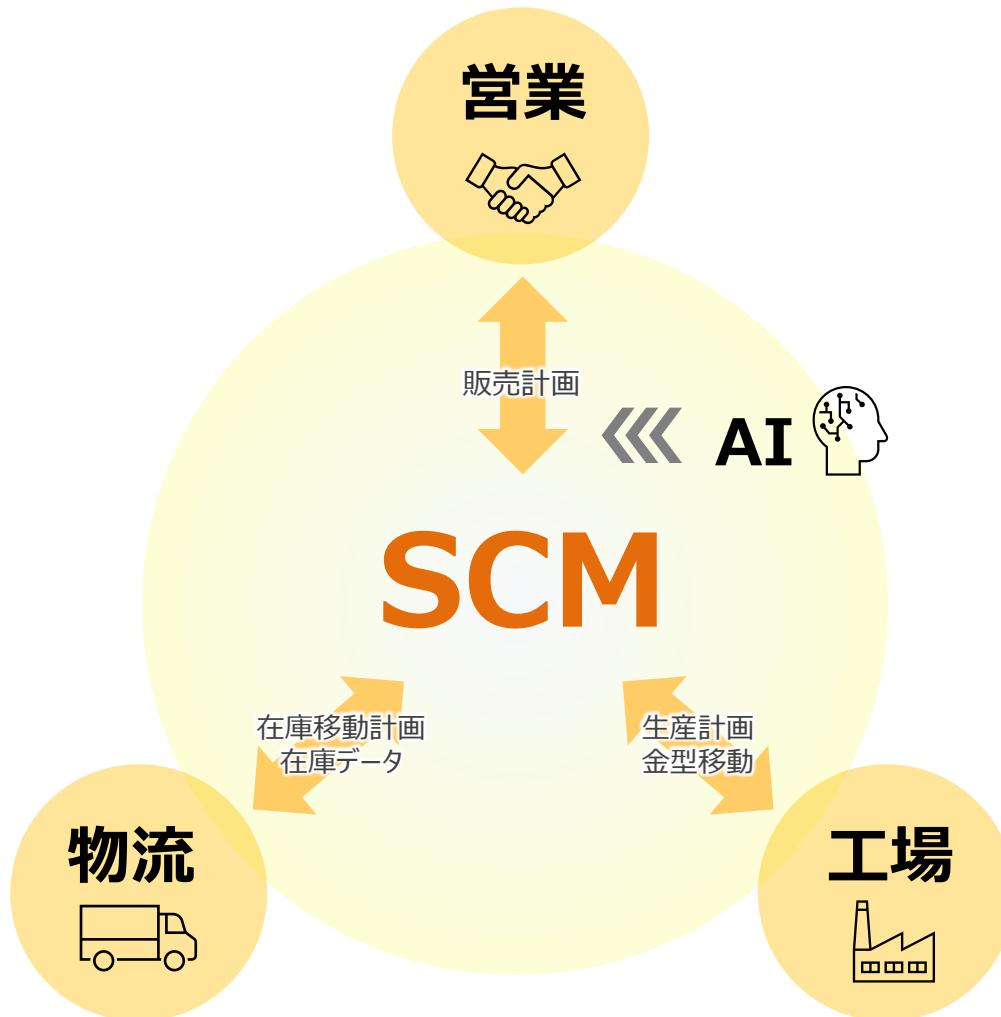


BCP(事業継続計画) “災害時の安定供給”
全国の物流施設すべてに非常用発電設備を設置
72時間の電力供給を確保



サプライチェーン・マネジメントシステム (SCM)

安全・安心な食生活を支える**安定供給**



- 約12,000アイテムの品揃え
- 適切な在庫水準を維持
- AI活用による
販売予測の精度向上・効率化

人材の確保・定着に向けた投資① 自動化・省力化



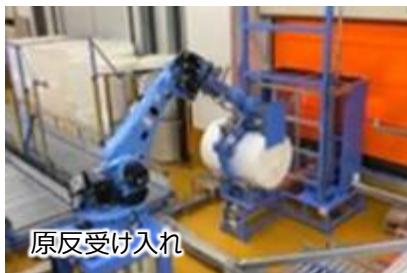
単純なモノの移動の省人化



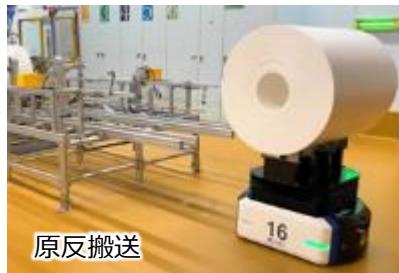
重労働の軽作業化

頻度の高い作業の省人化

生産部門



原反受け入れ



原反搬送

物流部門



無人搬送車 (AGV)



ソーター



原反つなぎ



梱包



無人フォークリフト (AGF)

- AGV : 33台 ('25/3期)
- AGF : 6台 ('25/3期)
- ソーター : 5センターに導入

自動化設備導入による効果

就労環境の改善

職域の拡大

付加価値業務への人員振替が可能

人材の確保・定着に向けた投資② 待遇改善

2019年3月期 退職金制度の拡充

2021年3月期 給与水準向上（深夜労働手当等の改定）

2024年3月期 製造・物流会社における現場社員を対象に

- ・給与水準平均10.7%の大幅な改定
- ・初任給の引き上げ
- ・休日日数の増加

製造・物流会社における離職者数

前年比 63名減少

(自己都合のみ、2023/4～2024/3 実績)

2025年3月期 給与水準平均5%の改定

2026年3月期 給与水準平均5%台半ばの改定

外部評価機関によるESG評価

レーティング

FTSE (英)

(2024年6月) (2025年6月)

4.0 → 4.0

MSCI (米)

(2024年5月) (2025年5月)

BB → BBB

CDP (英)

(2024年2月) (2025年2月)

A → A



SUSTAINALYTICS (蘭)

(2023年12月) (2024年11月)

14.4 → 17.8
(Low Risk)

※低い程良い

ESG指数



FTSE4Good



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index



**2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)**

Morningstar
Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index (GenDi J)

その他外部機関からの評価・活動

外部評価



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門



平成27年度
地球温暖化防止活動環境大臣表彰



対策活動実践・普及部門



環境関連参画団体



能力を最大限に活かすダイバーシティ経営

エフピコグループの基幹業務で活躍

障がい者雇用人数

401名

障がい者雇用率換算数

676名

障がい者雇用率

12.6%

(2025年3月時点)



製造

食品トレー容器の成形、組立加工、検品、包装



選別

使用済み食品トレー
透明容器

エフピコのサポートで
お取引様を中心に

55事業所 770名

の雇用が生まれました
(2025年3月時点)



● 障がい者雇用に関する評価

► 2024年9月（東洋経済新報社）「障害者雇用率ランキング」3位

► 2022年6月（厚労省）「障害者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定（もにす認定）」※エフピコダックス（株）

► 2019年1月（厚労省）「H30年度 障害者活躍企業」認証 ※エフピコダックス（株）



施設見学のご案内

【随時受付】経営企画室：03-5325-7756

最新鋭の 生産 物流 リサイクル をご観いただけます

関東



中部



福山



関西

